

近江国野洲郡大篠原村小澤家文書史料細胞現状記録 (一)

(解説) 戸森 麻衣子

はじめに

この現状記録は、東京大学日本史学研究室吉田研究室において実施した、旧近江国野洲郡大篠原村(現・滋賀県野洲市大篠原)小澤家文書に関する調査の成果物として取りまとめるものである。小澤家は、同地域きつての旧家であり、相当量の古文書を残されてきた。一九九六年に御当主の小澤七兵衛氏が日本史学研究室を訪問され、同家に多数伝来する古文書の調査を依頼された。そこで同年秋から二〇〇一年二月にかけて、吉田研究室により五次に及ぶ現状記録調査を同家において実施し、その後二〇〇七年九月に若干の補足調査を行い、ようやく史料細胞現状記録の完了に至ったものである。

六次にわたった現地での調査日程と参加者は以下のようにある。

第一次調査…一九九六年一月一日～四日

榎本涉、川本慎自、田中麻子、中網栄美子、永原健彦、朴澤直秀、牧原成征、横山百合子、吉田伸之、古川与志継

第二次調査…一九九七年五月三〇日～六月一日

伊藤剛、川勝守生、金孝宣、蕭燦堂、多和田雅保、富善一敏、戸森麻衣子、日暮義晃、朴澤直秀、牧原成征、吉田伸之、吉田ゆり子、古川与志継

第三次調査…一九九九年二月三日～二月二五日

上田純子、海原亮、川勝守生、木村直樹、竹ノ内雅人、多和田雅保、戸井田祐、戸森麻衣子、永原健彦、朴澤直秀、牧原成征、山田理恵、古川与志継

第四次調査…二〇〇〇年二月一八日～二月二〇日

海原亮、川勝守生、小林聖夫、城下賢一、竹ノ内雅人、朴澤直秀、牧

原成征、横山百合子、小林紀子、吉田伸之、古川与志継

第五次調査…二〇〇一年二月二十八日～三月二日

荒木裕行、海原亮、崔恩碩、城下賢一、竹ノ内雅人、戸森麻衣子、永原健彦、中間憲太郎、平田晋作、藤田雅子、前澤健、牧原成征、松澤裕作、村和明、吉田伸之、古川与志継

第六次調査…二〇〇七年九月二十七日～二十八日

坂本広徳、戸森麻衣子、村和明、安田智昭、吉田伸之、古川与志継

I. 現状記録について

一. 伝来状況の概要

a. 小澤家文書の概要ならびに特徴

本文書群は、近世中期から大正・昭和期にかけて年代分布する、小澤家の家や経営の記録を中心とする文書群である。

小澤家は一貫して近江国野洲郡大篠原村を本拠とする旧家であるが、近世中後期に下野国に出店を持つ近江商人としての履歴を有することから、文書群は多元的な組織構造を示す。

近江商人としての活動ならびに、近江商人としての活動から派生して形成された幕藩領主との関係に、近世における小澤家の特徴を見ることが出来る。小澤家は下野・近江国両地において御用達として領主財政に関与し、しかも、その御用達としての活動が翻って小澤家の経営動向を大きく左右する面を有した。下野国での領主谷田部藩、近江国での領主仁正寺藩ともに石高二万石未満の小藩であり、このような

小藩の領内で活動する近江商人が領主との関係をどのように構築せざるをえなかったのか、その実状を如実に示す文書が多数含まれている。

一方で小澤家は、大篠原村の草分け百姓の一つとして、寺社など村落共同体の運営・維持にかかる組織において中心的な役割を担っており、本文書群から同村における村落共同体と村の成員の関係のありようについて知りうるのみならず、村落共同体と近江商人本宅の関係という論点についても考察しうる史料となっている。

小澤家は、幕末期から生業の中核を地主・金融業に据えており、その各種帳簿はあらかじめまとまって伝来している。近江国地域における中規模地主層の、近世から近代への移行の状況をよく示す文書群のひとつとなっているといえよう。日本各地に大店を展開する著名な近江商人との資金融通での関係や、中世以来の歴史を誇る権門寺院である芦浦観音寺との質地関係など、金融面をみても近江国の地域性に由来する特徴をうかがうことができる。

近代に小澤家は、近代的会社組織への展開をはかる地域豪農商と手を組み、会社の創業・組織化において主導的役割を果たしており、こうした勃興期の企業家の活動を知ることのできる好史料のひとつといえる。

b. 小澤家文書の年代範囲

享保四年（一七一九）―昭和三四年（一九五九）の範囲で分布する。

c. 全体数量

目録件数四二八五件。史料細胞一点ごとに分けて目録を作成していない一括文書が多数あるので、実数はこれを大きく上回る。

d. 史料の状態

史料状態は大方良好であるが、組織単位「米」にやや虫損・破損文書が目立つ。

二. 史料調査の方法

小澤家は江戸時代より大きな災害に遭っておらず、幕末期から昭和期にかけて新改築を重ねてきた小澤家屋敷内の母屋・文庫蔵・新蔵・米蔵の各所に江戸時代以来の文書を保管してきた。こうした文書の現秩序を反映させるために、保管場所を示す組織単位記号（金・文・母・新・米）を文書番号の頭部に用いることにした。土蔵内において古文書類は、長持や筆筒、柳行李などの収納容器に入れられて保管されていた。こうした収容容器ごとにさらに下位の組織番号を与えたが、これは任意に与えたもので、なんらかの原則に拠った番号ではない。なお、次頁【表1】に文書収容容器目録を示す。ビデオ録画やスケッチを伴う詳細な史料組織現状記録は、文書収容容器単位以下について実施し、文書一点ごとの識別番号を確定した。

史料調査の手順としては、文書収容容器ごとの史料組織現状記録作成のち、史料細胞一点ごとの目録を採取することにした。しかし、所蔵者宅における調査で時間が限られており、悉皆調査は難しかったので、いくつか優先事項を設けて目録採取を実施した。近世ならびに明治期の史料を優先して目録採取した点、近代の領収書や書状類の束は時間的制約からその解体を保留した点などである。大正期以降の文書には現当主や大篠原地区の現在の生活に直接関わる文書も含まれるため、目録採取を保留したほうがよいのではないかという判断もあった。

なお史料細胞一点ごとの情報についてであるが、できるだけ記述の統一に努めたものの、多人数参加の現地調査であるために精粗バラつきのあることは寛恕されたい。

II. 小澤家ならびに小澤家の属した各組織の歴史

本史料群は、小澤家の家と経営の歴史の証拠書類であると同時に、小澤家がその活動を展開した近江国野洲郡大篠原村ならびに下野国芳賀郡茂木の歴史の一節を語る文書群でもある。そこで、本史料群の内容を理解するための手がかりとして、一・小澤家の歴史、二・近世茂木の歴史、三・大篠原村の歴史、と各々の履歴を解説し、若干の論点を示したい。

一・小澤家の歴史

小澤家所蔵の系図によると、祖先は中世に武蔵国秩父に住んでいたが、その子孫小澤六郎三郎重宗は織田信長に仕えて尾張国に住し、のち近江国安土に移り、天正一〇年（一五八二）、主君信長とともに本能寺の変で討ち死にしたという。重宗の子重正が父の死後誰に任せ、なぜ浪人となったかは明らかでないが、元和二年（一六一六）、京都所司代板倉伊賀守勝重の命により諸浪人追払いが行われたために当時居た京都から逃れ、翌元和三年、重正は現在小澤家のある近江国篠原村に落ち着くことになった。この二代重正から五代小澤與左衛門政昌まで小澤家が近江国でどのように暮らしていたかを示す文書は小澤家文書中にほとんどなく、判然としない。六代小澤六左衛門政次の代になると、政次は近江国に所持していた田畑を弟に預け、貞享年間（一

表1 小澤家文書収容容器目録

容器番号	容器素材・形状	サイズ(単位mm)	備 考
金1	木製箱	380×108×107	
金2	箱	260×70×90	上書「御書付 小沢七兵衛」
金3	箱	390×146×93	
金4	木箱	400×80×80	
文0	木箱		
文1	柳行李		
文2	柳行李		
文3	木箱		引き出し2つ付き
文4	箱		
文5	木箱		「…嶋帳東組」
文6	(卷子)		
古1	ボール箱	440×300×140	
古2	缶箱	360×275×100	
母1	行李	310×500×320	箱底内側に墨書「天印内 小沢氏」
母2	洪紙貼り付け漆塗り木箱	413×314×84	漆塗木箱の上に新聞紙を貼り、更に洪紙を貼る
母3	蓋(金具つき)付き木箱	520×335×210	
母4	蓋(金具つき)付き木箱	460×320×180	
母5	蓋(金具つき)付き木箱	470×315×190	
母6	箱	450×385×130	
母7	蓋(金具つき)付き木箱	500×330×220	
新1-1	ダンボール箱	460×255×300	
新1-2	箱	530×265×365	
新1-3	箱	530×260×365	
新1-4	箱	315×325×100	
新1-5	帳箱	375×245×236	上面に穴が開いている
新1-6	帳箱	344×245×236	
新2-1	木箱	230×308×660	内部三段
新2-2	木箱	230×308×660	前面に「皇朝史略」と書かれた紙貼付
新2-3	木箱	230×308×650	前面に「四書五経 織田軍記二十三卷」とあり
新2-4	木箱	230×308×650	前面に「…四十卷」とあり
新2-5	木箱	230×308×650	前面に「難波軍記…」とあり
新2-6	赤漆塗り箱	226×315×664	前面に「甲陽軍艦…」「六」と箱入り文書リストあり
新2-7	赤漆塗り箱	226×315×664	前面に「七」とあり
新2-8	木箱	230×318×600	
新2-9	木箱		前面に「九」とあり
新2-10	木箱	200×145×185	横に「和古漢□ 万宝書」とあり
新2-11	木箱	240×190×420	
米1	ダンボール箱	530×540×310	
米2	ダンボール箱	300×547×220	
米3	行李	307×525×198	
米4	ダンボール箱	420×640×475	
米5	蓋なしの木箱	585×440×287	
米6	蓋付き木箱	299×452×193	まわりに洪紙貼り付け
米7	ブリキの衣装箱	793×431×432	
米8	ダンボール箱	795×380×299	
米9	木箱	590×330×240	
米10	木箱	640×290×290	
米11	木箱	880×370×390	
米12	木箱	600×430×320	
米13	木箱	320×400×130	
米14	木箱	510×440×300	
米15	木箱	540×260×130	
米16	丸桶	直径490×高さ600	

表2 小澤家歴代当主

	名 前 (諱名)	通 称	没 年	先代との関係
初代	小澤重宗	六郎三郎	天正10年6月2日	
2代	小澤重正	六郎左衛門	寛永2年10月7日	初代重宗子
3代	小澤正秀	六郎右衛門	万治2年9月21日	2代重正子
4代	小澤正照	與三二郎	元禄13年11月14日	3代正秀子
5代	小澤政昌	與左衛門	享保4年10月27日	3代正秀子
6代	小澤政次	七兵衛・六左衛門	元文4年3月7日	4代正照子
7代	小澤正信	七兵衛・甚兵衛	延享4年11月3日	養子(4代正照五男)
8代	小澤正直	七兵衛・六右衛門	寛政3年12月15日	7代正信子
9代	小澤正義	七兵衛・六右衛門	文政5年閏正月9日	養子(7代正信二男の子)
10代	小澤正美	七兵衛・六左衛門	慶応元年5月18日	9代正義子
11代	小澤正賢	鶴之助	天保5年3月22日	10代正美子
12代	小澤生美	七兵衛・六左衛門	明治27年10月22日	養子(川田村井口家出身)
13代	小澤政美	七兵衛・寅吉	大正14年11月24日	12代生美子
14代	小澤七兵衛	寅治郎	昭和19年2月28日	13代政美子
15代	小澤七兵衛	敏男	昭和19年8月18日	14代寅次郎子
16代	小澤七兵衛 (現当主)			

六八四〜一六八八)、辻村の田中與惣右衛門の縁を頼って下野国宇都宮へ行く。辻村は、三上山と野洲川の南、現栗東市に位置する村である。正徳二年(一七一二)には宇都宮に定住するようになる。のち享保四年(一七一九)正月、宇都宮の東方約三〇キロに位置する下野国芳賀郡茂木に移り、茂木に屋号釜屋と称する店を開いた。

六左衛門政次が下野国に移った経緯についてはごく簡素にしか書かれていないが推測すると、寛文五年(一六六五)生まれの六代小澤六左衛門は二一歳で宇都宮にある田中氏の店の奉公人となり、次第に才覚を現すようになってついには支配人まで登り詰め、そののち四八歳の時、主人より別家を許されて独立、宇都宮に本格的に住まいを移すことになり、さらに五五歳で商機を見込んで茂木に移り、新たな店を興したものと考えられる。享保四年に釜屋七兵衛が茂木の家屋敷を買得した証文が残っており(金4-14)、これが最初の店舗地取得であったと推測される。

上村雅洋氏が著書『近江商人の経営史』(清文堂、二〇〇〇年)で示した近江商人のライフサイクルによると、東北や関東など近江国以外の遠隔地に出店を有した近江商人の場合、その店員の大多数は近江国の本宅周辺地域に生まれた者から雇用され、年齢は一〇代前半で入店させられた。店員は入店して数年は本宅や畿内の店舗で商人としての基礎が叩き込まれ、そののち地方の支店に派遣され、二〇年ほど勤続して大体三〇歳から三五歳頃に手代から支配人の地位につく。支配人となって五年ほど経つと別家を認められ、世帯を持つことや自家業を営むことが認められたという。店によってシステムは異なるので一概には言えないようだが、おおよそこのようにして近江商人は成長していくのであり、小澤六左衛門政次も同様のプロセスを辿ったのではないかと思われる。

茂木に開かれた小澤家の商店釜屋であるが、釜屋の屋号は、六代小澤六左衛門が頼った田中与惣右衛門の出身地辻村が釜・鍋等の有名な生産地だったことに由来しているという(『野洲町史』)。また、代々の通称七兵衛の「七」が示すように、釜屋は七つの商売を営んでいた

写真1 現在の茂木安養寺



とされる。正確な年代は明らかではないが、はじめ釜屋は醤油醸造や油・釜の販売を始め、のち、米穀売買・酒造・味噌醸造・質金融・札差業などに業種を広げていったと考えられる。

茂木に店を構えた六代六左衛門政次は生涯単身で過ごしたが、その跡を継いだ七代七兵衛正信からは、他の近江商人と同様、大篠原の本宅に家族を住ませ、主人が本宅と茂木店を往復して直接経営の陣頭指揮を揮う生活を送ったと考えられる。小澤家の夫人の出身村や娘の嫁ぎ先は一貫して近江国野洲郡周辺地域である。しかし、小澤家では茂木に曹洞宗藤縄山安養寺を再建し、これを菩提寺としている。安養寺には小澤家の墓碑が数基現存しているが、一方で大篠原の本宅には菩提寺浄勝寺があり、何らかの理由があつて両寺に帰依していたものと考えられる。

釜屋は下野国茂木に最初の店を構え、のち黒羽店・宇都宮店・江戸小網町店と関東における店舗を増やしていった。黒羽の出店は黒羽向町にあり、手代を置いて差配させていた。しかし、天保四年（一八三

三）には黒羽の河岸積問屋株や建家を他人に貸しており、黒羽店の経営から引いた可能性がある（文1―74）。後述するように天保四年には茂木で町中騒動が発生して釜屋の店舗が被害を受けたことから経営の縮小（店仕舞）を行っており、これと連動する動きと見られる。なお、宇都宮・江戸の店舗について存在は確認されるものの、経営の詳細は判

明しない。

小澤家が黒羽に店舗を設けたのは、茂木からの商品輸送経路の問題と大きく関わっている。小澤家が茂木周辺で集荷して江戸に送る荷物は、那珂川舟運を利用して運ばれた。那珂川から霞ヶ浦・利根川を経由し、江戸川に運ぶルートである。江戸から茂木にもたらされる商品荷物も那珂川の河岸から上げられ、馬で茂木まで運ばれた。しかし、小澤家が荷主として送った谷田部藩茂木領蔵米の輸送ルートを仕切状から確認すると、那珂川舟運のみでなく鬼怒川舟運も利用されていることがわかる。この場合、鬼怒川の中里河岸（現小山市カ）まで馬背に積んで陸路を輸送し、そこから舟で江戸まで運ぶというルートが取られた。茂木から河岸までの距離は那珂川河岸の方が近いが、江戸まで舟で運ぶのが長いのにに対し、鬼怒川の河岸へは陸路が長いが江戸まで舟が早く到着するという相違があり、荷物の内容や要件で両河川を使い分けたと考えられる。

小澤家が茂木に定着し、近江商人として頭角を現すに従い、領主である谷田部藩（茂木陣屋）との関係も深まっていた。小澤家文書で確認される範囲で言えば、寛政一二年（一八〇〇）に小澤家が藩に金子五〇両を用立てたのを嚙矢とし、釜屋は藩へ多額の金子を用立てるようになっていく。文化四年（一八〇七）に発生した茂木領一揆は、茂木領の年貢を引き当てに大坂の商人鴻池五兵衛から借金をする方針を示した藩に対し、年貢の取立てが厳しくなることを恐れた百姓らが鴻池からの借金を中止することを求めて起こしたもので、百姓らは大坂商人ではなく地元の釜屋や同じく近江商人の栄屋から借付金を調達するよう藩に求めている（『茂木町史』）。その結果、釜屋七兵衛は茂木藩御勝手方御用達に命じられ、藩の御用達商人としての性格はより

強まった。御用達商人としての働きに対し小澤家は、道中帯刀御免・扶持給付などの特権を与えられ、茂木に所持している土地の年貢・諸役の免除なども受けている。小澤家の記録から見る限り、安政四年（一八五七）までは藩に対する献金が続けられていたことが判明する。

また谷田部藩のほかに、芳賀郡町田村・中根村（現茂木町域）に知行所を有する旗本千本氏との金融を通じた同様の関係も確認される。

天保期になると谷田部藩財政は逼迫した状況に陥ったため、藩医中村元順は尊徳仕法の導入を主張し、二宮尊徳の指導のもと谷田部藩では天保六年（一八三五）から仕法が実施された。元順は名前を勸農衛（かのえ）と改め、仕法の責任者として借財の棒引き、無利子返済など借財整理を押し進める。このとき釜屋七兵衛（小澤家）からの藩債についても二千両を超える多額の棒引きを迫り、釜屋は余儀なくそれに応じている。勸農衛はほかに、荒地の起こし返しや用水普請などを行い、農村の立て直しに努めた。釜屋の経営にとって谷田部藩に対する貸金を棒引きせざるを得なかったことは痛手であった。それに加え天保期には、茂木町内で打ち壊し事件が発生した。天保四年（一八三三）は凶作で米価が値上がりし、茂木周辺では不穏な動きが続いていた。そのさなかの八月の夜、釜屋の店舗に村人がやってきて戸を破り、品物を壊していった。このとき主人の七兵衛は近江国へ帰って置いて留守だった。その直後、茂木藩領の庄屋全員の願いと称して釜屋と栄屋に六〇〇両を貸してもらいたいと言う者が訪れた。いわゆる押し借りである。押し借りは阻止されたものの、このような事件が続いたこと也有着て、小澤家では経営縮小ひいては下野国からの撤退を考えるようになったとみられる。十代七兵衛正美は、十一代正賢が茂木で天保五年に亡くなったのち、跡を継いだ十二代目の養子夫婦に店を譲って

大篠原村に移る。養子の十二代六左衛門生美ものち番頭に店を譲って大篠原に移る。茂木の地所は大篠原へ移った後もそのまま所持していたが、明治一〇年（一八七七）に多くを売却処分して小澤家と茂木の関係は離れた（母1—182）。

近江国に戻ってからの小澤家は、引き続き醬油醸造などを手がけるものの、もっぱら土地経営・金融を家業とした。土地は質地金融の担保としたものが流れて小澤家の所持地となったもので、大篠原村隣に小澤家の小作地が展開していた。また小澤家は、茂木において藩への融資が原因となって経営に痛手を受けたにも関わらず、大篠原へ戻った後は、大篠原村の領主である仁正寺藩市橋家に対し多額の融資を行い、茂木時代同様に御勝手方として藩財政に深く関与することになる。

仁正寺藩市橋家は元和六年（一六二〇）年以来近江国蒲生郡仁正寺に陣屋を置く一万七千石の大名で、領知は近江国蒲生郡・野洲郡と河内国交野郡とに与えられていた。文久二年（一八六二）には仁正寺の地名を西大路と改め、西大路藩となっている。小藩ながら一貫して近江国に所領を持ち続けたため、領知村々との関係は密着したものであったと考えられる。

仁正寺藩御勝手方には、藩領内に本宅を有した近江商人や裕福な庄屋ら複数名が任じられた。御勝手方の実態は逼迫する藩財政を賄わせるための在地組織で、彼らに共同させることで藩は必要な金額を随時調達することができたといえる。明治維新段階で御勝手方より藩への貸金高は三〇〇両以上にも上り（文1—165・166）、維新後は御勝手方が協力して藩に対する債権の返還を求めて行くことになる。藩債問題にからみ小澤家と市橋家ならびに旧家臣との関係は最終的に明治二

○年代まで続いている。

近江国における幕藩領主と小澤家の関係では、芦浦観音寺とのそれも注目される。芦浦観音寺は現草津市の琵琶湖畔に位置する天台宗寺院で、中世以来湖上交通に関与、豊臣政権期には数万石の領知を持ち、城主としての格式を有した。江戸時代前期には近江・大和国の郡代官、幕領代官や船奉行を勤めた。しかし、近世後期には五〇〇石程の寺領を与えられた一寺院領主でしかなく、観音寺も困窮に陥っていたようで、小澤家では観音寺へ多額の金融を行っている。滞った返済金の代わりとして観音寺は小澤家に書画工芸品の類や観音寺寺領年貢米を渡したのみでなく、観音寺領の土地領有そのものに関わる権利を小澤家に質入していたとみられ、一部寺領百姓の年貢米は自動的に小澤家へ納められるようになっていたようである。

明治維新後の小澤家は、地主経営・小作米の売買ならびに金融、会社経営への参画を中心に活動した。そのなかで十三代七兵衛政美は銀行や会社の設立に参加して頭取や役員を勤めた企業家でもあった。十

写真2 現在の小澤家



三代政美は文久三年（一八六三）に大篠原に生まれ、明治六年（一八七三）に京都に出て学問を学び、以来江頭農産銀行頭取、近江帆布株式会社取締役、日本製麻株式会社取締役、同社後継の帝国製麻株式会社監査役、滋賀県農工銀行監査役を勤めた。これらの役職には殆ど会社の創立以来ずっと就いている。また、江戸時代には近江商人として本宅と茂木を往

復する生活であったため勤めなかった村の公職にも明治期には就いている。例えば、明治三〇年～明治四二年（一八九七～一九〇九）、昭和二年～昭和十五年（一九三七～四〇）の期間には、明治二二年まであった大篠原村・小堤村・入町村・長島村・高木村・小南村が合併して成立した篠原村の村長を勤めていることがわかる。

なお大正六年（一九一七）、滋賀県湖東地域で行われた陸軍大演習の時、梨本宮守正王が小澤家を宿泊所とした。それに先だち小澤家では新座敷の新築を実施しており、普請に関わる様々な史料が残されている（母6）。

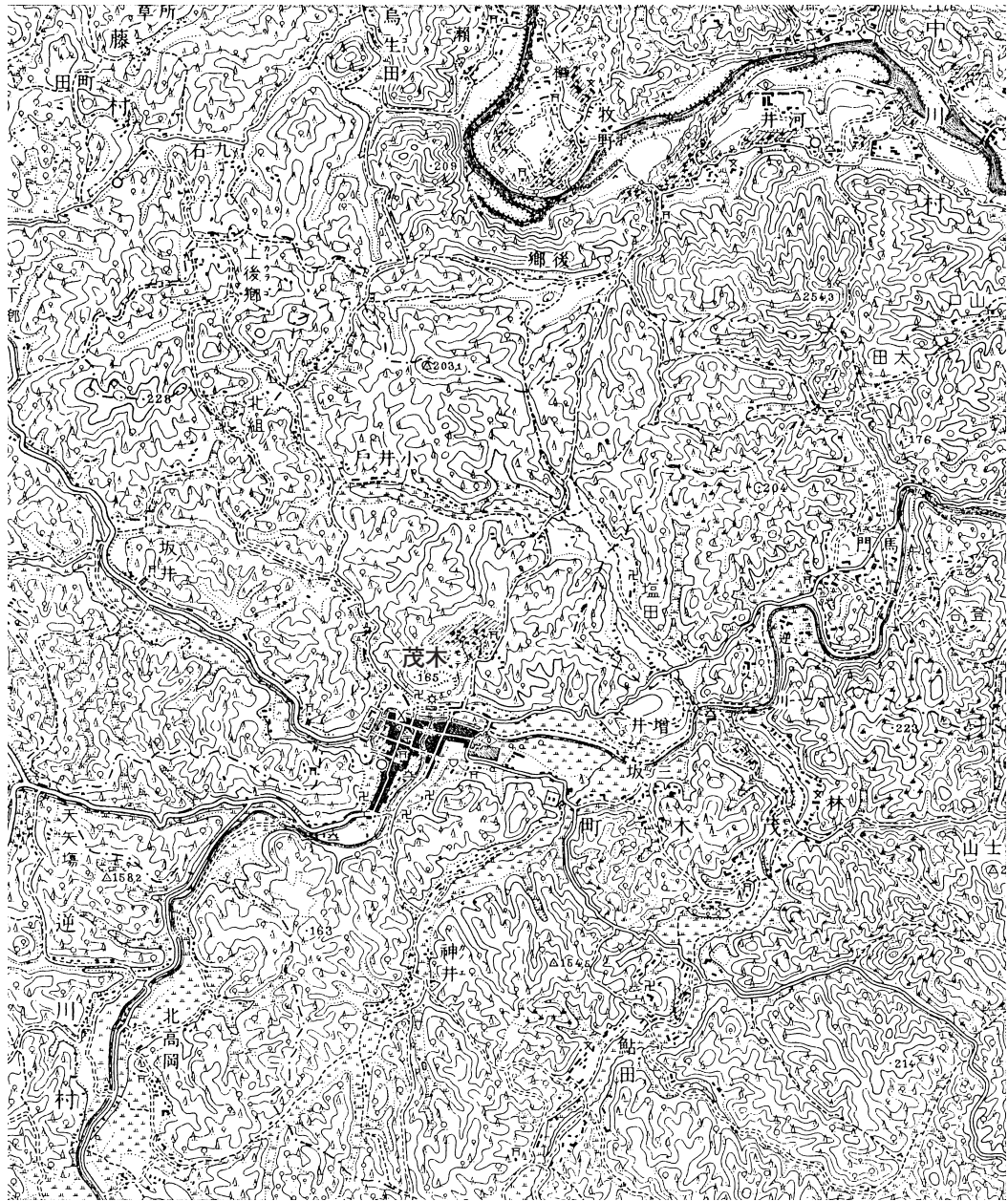
二・近世茂木の歴史

茂木は、谷田部藩の陣屋町として形成された町場であるが、行政村としては藤縄村と槻木村の二か村からなる。

茂木の町は山あいの盆地地形の場所に逆川に沿って形成され【図1】、藤縄村は逆川の左岸に位置し、「旧高旧領取調帳」によると幕末期の村高六九三石、寛政七年（一七九五）には家数六三軒、人数五一人であったという。一方、槻木村は逆川の右岸に位置し、同様に「旧高旧領取調帳」によると村高四二〇石余、寛政七年に家数六七軒、人数二六九名があった。この藤縄村と槻木村は、明治八年（一八七五）に合併して茂木村となっている。

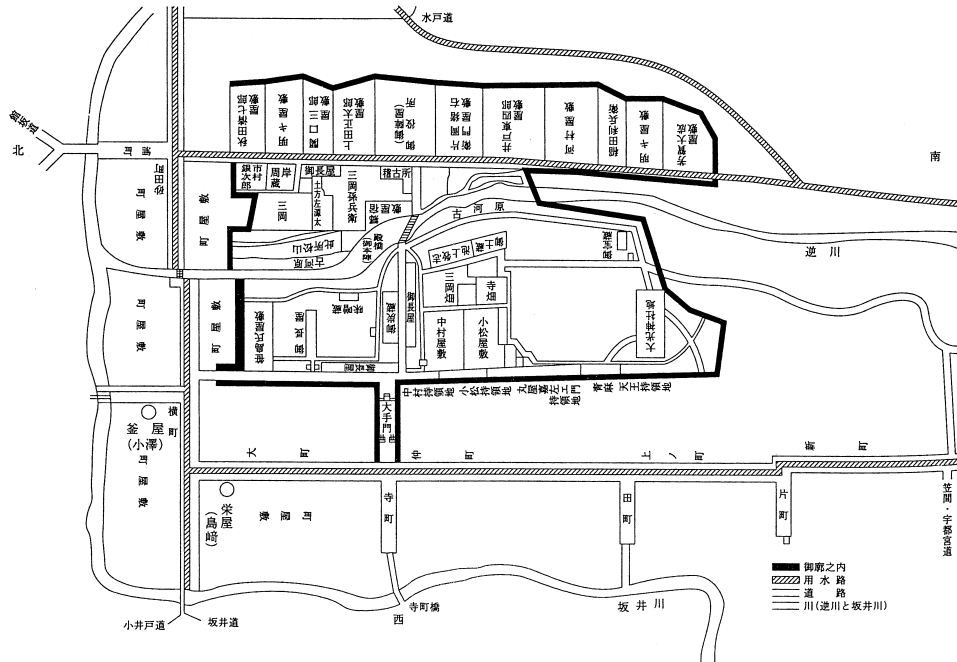
谷田部藩は茂木に支配の拠点たる陣屋を置く藩で、熊本藩祖細川忠興の弟興元を初代とし、九代続いて明治維新を迎える。茂木陣屋は慶長一五年（一六一〇）に細川興元の茂木初入部にもなって設置されるも、元和五年（一六一九）、参勤交代の便をとって藩主の居所は谷田部（現茨城県つくば市）に移された。しかし、谷田部藩の所領は茂

図1 茂木周辺地形図



〔明治前期内務省地理局作成地図集成〕（柏書房）より引用。明治33年発行地図。

図2 茂木町陣屋周辺図（古川与志継1999論文より転載）



(大木茂『茂木の歴史』収録「茂木細川藩町絵図」から作成)

町人地は藩陣屋の北と西に展開し、宇都宮や笠間から入る南の木戸から、新町・上ノ町・仲町・大町と続き、突き当りを東へ曲がって横町・砂田町と両側町が展開した。ほかに片町・田町・寺町・浦町などの横町があった。町屋敷の大半は藤縄村に属したが、砂田町は槻木村に含まれた。大町・横町が町場の中心地で、大きな商家が並んでいた。釜屋の店舗は横町から北に入った路地に面しており、小澤家と同じ近江商人である栄屋利兵衛（鳥崎泉司）の店は大町の表通りに面していた。町方の支配は、各町から選出された町年寄衆の手によって行われていた。町年寄衆は藤縄村の村役人が兼帯してなっている。

茂木では六斎市が開かれ、絹類・炭・米穀類・櫛物木具類・千染挽類・魚類・牛馬の類が売買されていた。茂木は宿駅としての機能も有し、日光・宇都宮・水戸・烏山・笠間を結ぶ街道の中継地として栄えた【図3】。

逆川は那珂川に注ぐ河川であるが、茂木より下流は蛇行して通船できないため、茂木周辺で産出される産物は、馬で付け出して那珂川の

写真3 茂木大町の現況



本周辺を中心に分布していたので、茂木に陣屋はそのまま残され、所領支配の拠点とされた。茂木陣屋には町奉行・副奉行をはじめ、目付・蔵方下僚・代官・作事方等の各種掛り役人が置かれ、彼らの武家屋敷も役所周辺に配置されていた。逆川を跨ぐ御本陣橋の東西に茂木陣屋が位置し、藩役所や藩士の屋敷・長屋が並んでいた【図2】。

河岸へ運び、そこから江戸方面へ送った。同様に下り荷物も那珂川の河岸から馬の背につけて茂木まで輸送された。ただし、年貢米においては那珂川ではなく、鬼怒川の諸河岸を用いることもあった。

茂木に出店した近江商人には小澤家の他に島崎家があり、両家は近江本宅との連絡・為替などの営業面や、火災などの非常時について協力関係を結んでいたことがわかる。島崎家は蒲生郡日野町に本拠を置く近江商人で、小澤家より早く元禄一六年（一七〇三）に茂木に店を開いている。島崎家でも那珂川の河岸のある黒羽をはじめ、下野国各地に支店を出した。島崎家の業種は酒造を中心とし、他に菓等の販売を扱っている。

文化五年（一八〇八）に谷田部藩茂木領で発生した百姓一揆では、農民たちは年貢減免等を要求して茂木町に集まり、陣屋役人と百姓衆は御本陣橋をはさんで睨みあった。また、江戸へ直訴しようという一団が街道を進み、それを押しとどめる藩役人や村役人との間で騒動も発生している。このとき、町場の有力商人である釜屋や栄屋は打ち毀しに遭うのを怖れて炊き出しを行ったり、釜屋では一揆勢に四面の助力金を渡したりしている。

文政期に茂木では、関東における改革組合村設置政策を受けて、藤縄村を寄場とする三ヶ村組合が結成され、地域の治安取り締まり拠点となるも、幕末期には百姓の騒動が相次ぎ、茂木の世情は不安定で、それは小澤家が茂木店を撤退する要因のひとつともなったといえる。

三・大篠原村の歴史

大篠原村は現在の滋賀県野洲市に所在した村落で、元和六年（一

図3 茂木付近の交通図（古川与志継1999論文より転載）

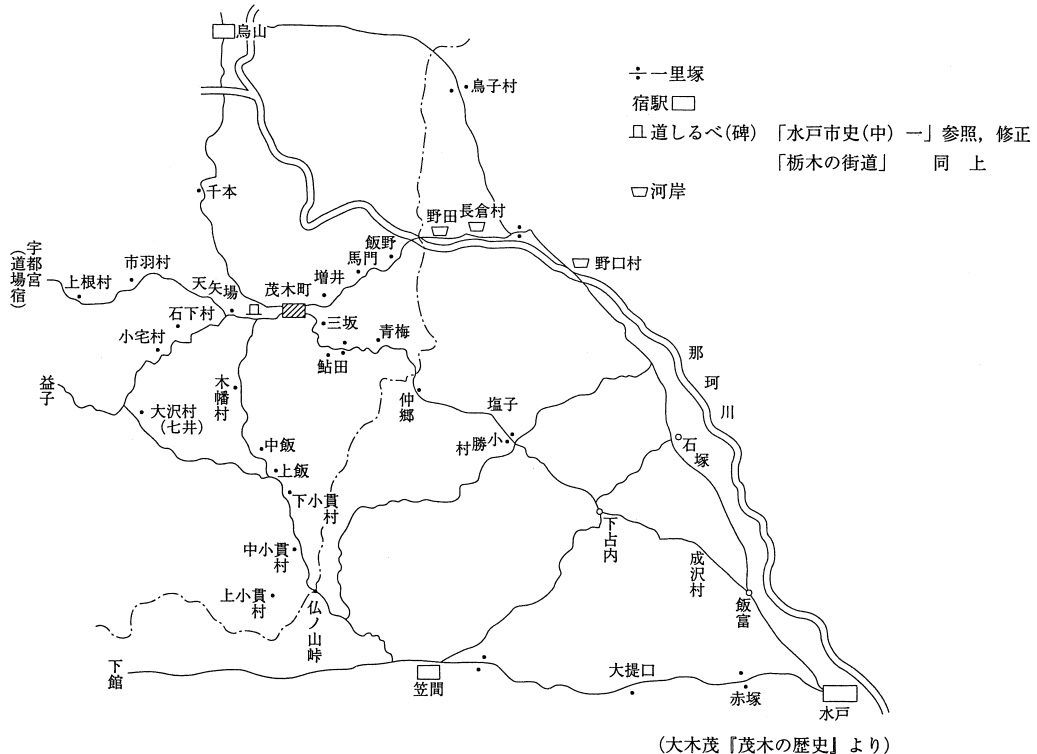
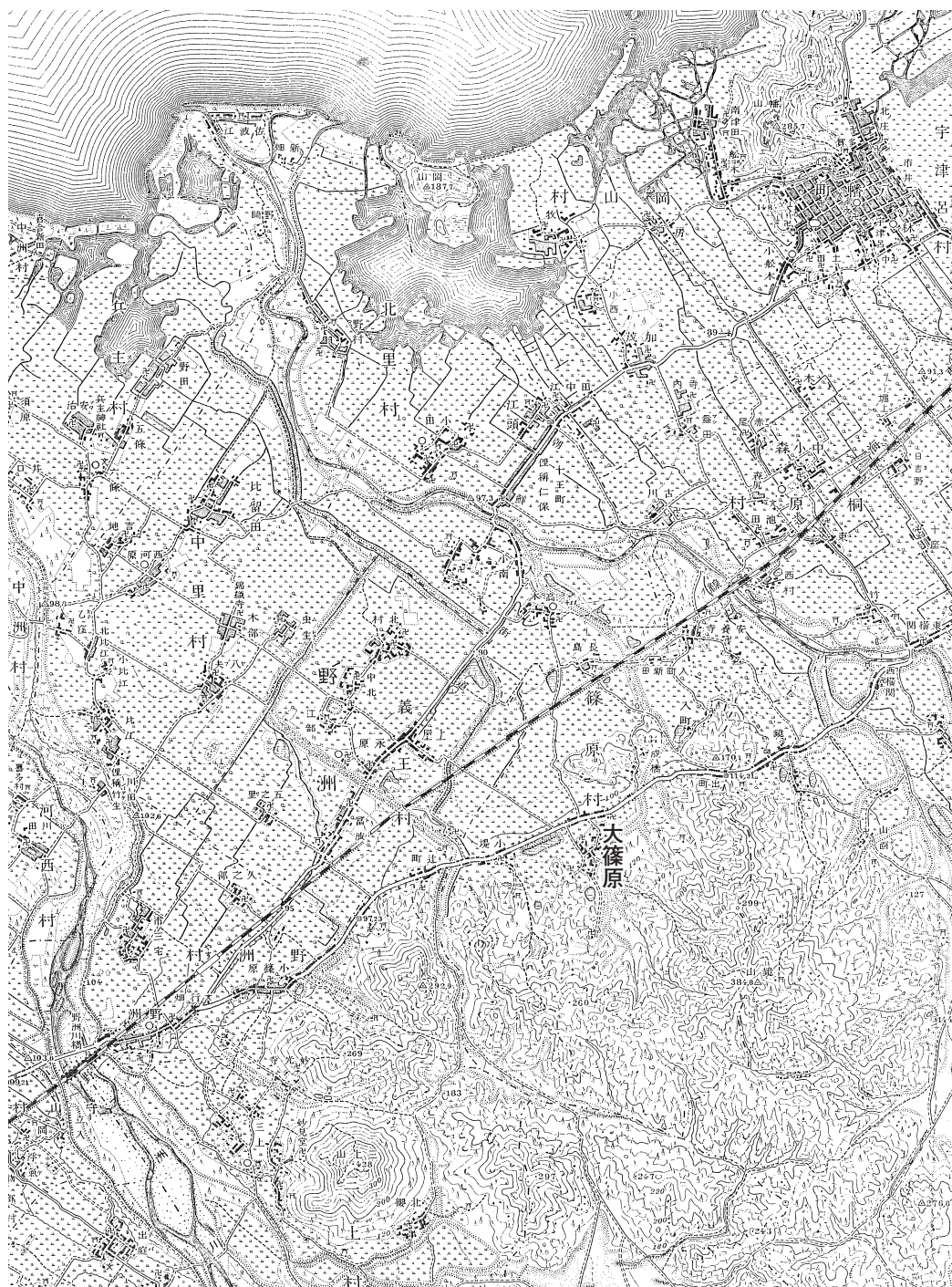


図4 大篠原村周辺地形図



『明治前期内務省地理局作成地図集成』（柏書房）より引用。明治33年発行地図。

写真4 現在の浄勝寺



六二〇)より幕末まで仁正寺藩領(文久二年に西大路藩と改称)に属した。明治維新後も明治二二年(一八八九)まで大篠原村は村名として継続する。

村は大きく北部の耕地部と南東部の山嶺部からなり、耕地部には中山道が貫く。小澤家は耕地部の中山道に沿って建つ【図4】。

村高は「寛永石高帳」「天保郷帳」とともに一六六八石、「慶安高辻帳」によると、石高の内訳は田一二四四石、畑六〇石、永荒三六四石とあり、非常に田方の割合が高い。天保一三年(一八四二)の明細書付によると家数九九、人数四八三人を数えるという。大篠原村は山地が多いため、村高に比して面積が広い。そのため村役人は多数置かれ、例えば天保一三年段階で庄屋二名・年寄四名・百姓代七名があった(『野洲町史』)。その一人、大篠原村庄屋小沢甚七は天保一三年に発生した三上山騒動に加わり、大津の獄舎で死亡している。

村の鎮守は大笹原神社で、応永二一年(一四一四)に六角氏家臣馬淵氏を願主として再建された社殿が現存し、国宝に指定されている。

村内寺院には、文禄三年(一五九

四)開基の浄土宗浄勝寺、浄土宗念仏寺、勝安寺、西養寺がある。村人の約半数が浄勝寺の檀家で、主として中山道の街道筋に屋敷を持つ「東組」と、字成橋・出町に屋敷を持つ「町組」の百姓はすべて浄勝寺檀家である。小澤家も浄勝寺の檀家であった。

大篠原村には、右記の町組をはじめ

め、西組・岩蔵組といった組の存在が確認される。これらは、地区単位に分けられた地縁組織であると同時に、神社の氏子組織、頼母子講を結成して経済的な相互扶助を行う組織、生産基盤である用水やため池の利用を巡って共同しあう組織としても機能した。

明治二二年(一八八九)、町村制施行にともない大篠原村は、小堤村・入町村・長島村・高木村・小南村と合併して篠原村となり、昭和三〇年(一九五五)、篠原村は野洲町・祇王村と合併して野洲町となった。さらに平成一六年(二〇〇四)、野洲町と中主町が合併して野洲市となる。大篠原は大字名として現在に残っている。

Ⅲ. 小澤家文書の構造

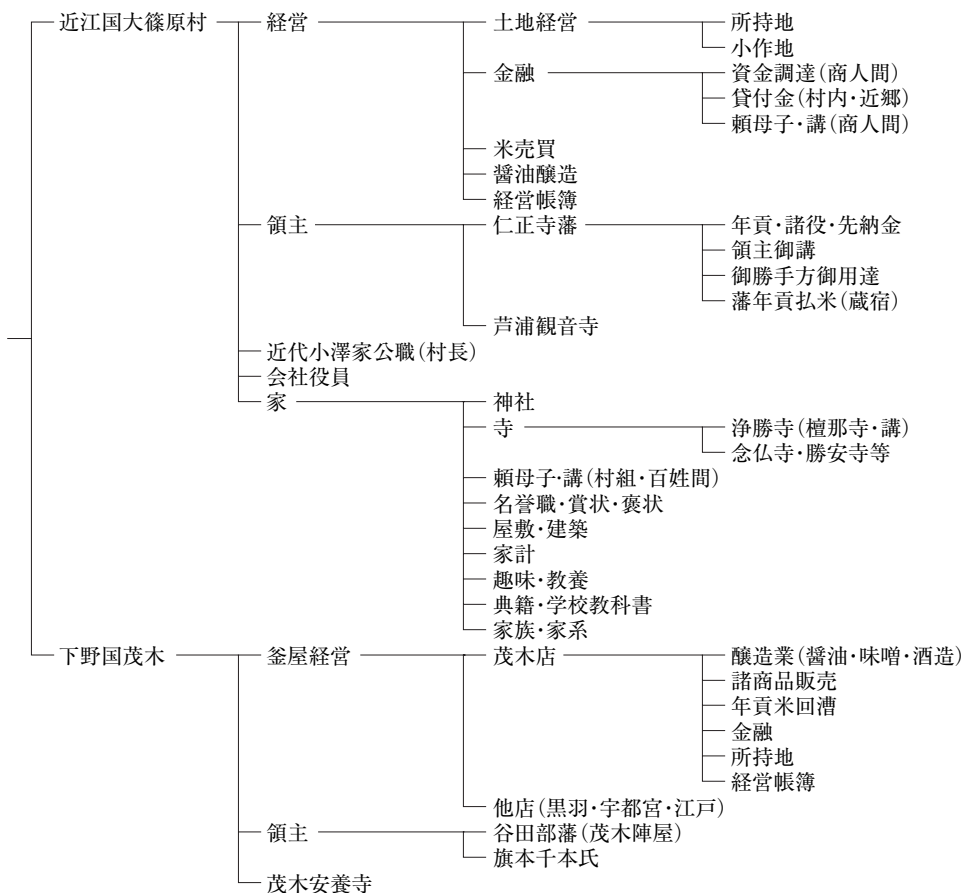
一. 文書群の全体構造

小澤家文書は、近江国での小澤家の活動を示す文書と、関東での小澤家の活動を示す文書とに大分される。関東での小澤家の活動は幕末期に閉じていることから、後者の年代分布はほぼ近世に限られる。一方、近江国における小澤家の活動を示す文書は、近世前期から近代(明治・大正・昭和期)まで連続して存在する。小澤家文書の史料群構造は【表3】に整理したように理解されよう。

小澤家では歴代の当主により、家蔵文書の、時代や分野に即した整理が行われ、屋敷内の各所に保管されてきた。そのため多少の攪乱はあるものの、調査時における史料保管状態と元来有した史料群構造は、おおよそ一致するものとなっている。

二. 各史料組織の内容

表3 小澤家文書の史料群構造



A・金

「金」は、小澤家内に設置された金庫の中に保管されていた文書群である。金庫内文書は、茂木より持ち帰った文書と小澤家では伝えられ、確かにその殆どが釜屋茂木店に蓄積されていたと推測される文書より構成される。ただし、金庫は近代の製品であり、金庫に文書が移されたのは小澤家が茂木店を閉じて時間を経た後の時期といえる。小澤家の近代当主のいずれかが重要文書と認識して他の場所から移し、嚴重に保管したものと考えられる。文書群の内容は大きく三つから構成される。ひとつは茂木店での経営向きに関することで、関東各支店の経理や醤油・油・米穀等の販売、年貢米の輸送、茂木近郊地域における金融に関する帳簿・証書類を主体とする。二つ目は谷田部藩・旗本千本氏との関係を示す文書、三つ目は、茂木の菩提寺安養寺に関する文書である。

B・文

「文」は、文庫蔵に保管されていた文書の一群である。文書蔵は小澤家に現存する蔵のなかでもっとも古く(建築は江戸時代後期と言いつた伝えられる)、比較的年代の古い文書群が保管されていた。

文0・芦浦観音寺関係文書を中心とする。年代は安政期以降が主。小澤家では芦浦観音寺に多額の金子を融資しており、それに伴って地代収納の権利を得たと推測される芦浦村質地関係文書も文0に多数

含まれる。芦浦村は一村全体が観音寺の寺領であった。また、扇屋伴伝兵衛をはじめとする諸近江商人との金融関係を示す文書もある。

文1…幕末期から明治期を中心に時代分布する各種文書群が含まれる。

○浄勝寺領年貢関係文書。これは小澤家が浄勝寺の檀家総代として果たした役割に由来するものであろう。

○明治二〇〜三〇年代の小澤家当主や家族の活動に対する賞状・褒状の類もまとまっている。

○仁正寺藩調達金関係。明治期の藩債処理に伴う文書を中心とし、同じく仁正寺藩御勝手方であった鋳物師村竹村太左衛門と小澤家の往復書簡が多数含まれる(文1-139)

○頼母子講関係。東組講、高木講・守山講など小澤家が加入した各種講組織に関する文書。

○明治初年布達類。

○仁正寺藩御用出役書類(文1-124-2)。小澤氏は幕末期、西大路藩の勝手方として河内国交野郡星田村に一時詰めた。星田村は仁正寺藩の飛地領であり、藩はここで農兵の編成を行っていた。

○藩払米関係。明治初年西大路藩年貢米の換金に関する文書。

小澤家は藩蔵宿の機能を担い、年貢米の入札や琵琶湖の船積問屋への輸送などに関与していたことがわかる。

文2…大福帳が多くを占める。大福帳は小澤家の金融部門の帳簿で、明治三〇年ごろまで継続している。

文3…正月に床の間に飾る慣例とされてきた、近世文書三点を貼った掛け軸。

文4…幕末から維新期の書状類が多い。例えば、仁正寺藩御勝手方御用達相互に交わされた書状、藩年貢米払米に関して交わされた書状など。なかでも鋳物師村竹村氏を発信者とする書状が目立つ。

文5…長嶋大明神、大笹原神社の氏子組織、祭礼などに関わる文書。

C. 古

これは小澤氏現当主が別置して手元においていた文書類である。

○典籍類の一部(もとは新蔵二階にあったものと推測される)。

○天保七年大凶作書(古川与志継氏により史料紹介がなされている。IV・関係文献参照)。

○童子一百集(小澤七兵衛氏により翻刻・出版されている。IV・関係文献参照)。

D. 母

母屋二階に保管されていたもので、年代は明治中期から大正期を中心とする各種文書群である。

母1…○土地売買証文・借用金証文類。年代は、古いものでは天明期、近世では文化期から天保期に属するものがまよって存在するが、数量的に見て大多数は明治・大正期である。そのほとんどが大篠原村近郷における土地売買、金融によるものである。

○明治二〇年代、小澤家当主が関与した会社関係文書。

○頼母子関係。明治〜大正期の浄勝寺講、念仏寺講帳簿など。

母2…○名誉職、賞状、褒状関係。赤十字、学校寄付金、浄勝寺寄付

金など。

○伴伝兵衛主催（講元）の講関係文書（母2―15）。明治二二年から二五年前後の年代。

○西大路藩負債金償還について（母2―16）、竹村太左衛門（秀保）との往復書簡。明治二〇年代のもの。

○母2―17…江頭村井狩弥左衛門にかかる一件書類。明治二〇年代の株式購入、預金関係等。井狩弥左衛門は明治一六年（一八八三）に江頭融通銀行を設立した人物で、明治二五年（一八九二）には組織を改変して新たに江頭農産銀行を開業している。その後、明治三九年（一九〇六）に創業者九代井狩弥左衛門が逝去すると、十三代小澤七兵衛政美が頭取に就任した（『近江商人の金融活動と滋賀金融小史』）。

母3…念仏寺講関係。明治三九年～大正一〇年前後。

母4…勝安寺講関係。明治三〇年～大正四年前後。講における飲食代金を記録した文書ほかが含まれる。

母5…○大笹原神社保存会関係。明治三〇年代。

○篠原起業講関係。明治三〇年前後。

母6…新座敷建築関係。大正三年～四年。梨本宮が宿泊所とするにあわせて建てた新座敷の建築に伴うもの。建具・ガラス等の材料見積もり書、請求書、送付書、大工手間賃などの会計書類がある。

母7…浄勝寺講関係。明治三〇年代～大正三年。

E. 新

新蔵に保管されていた文書。新蔵一階に保管されていたものは新1

とし、二階のものは新2の大番号を与えた。新蔵の建造年代は幕末期と伝えられている。

新1…○近代書状類。近江帆布、日本製麻、滋賀県農工銀行、江頭農

産銀行、帝國製麻など、小澤家が役員として関与した会社組織からの通信物など。明治二〇年～三〇年代。

○小澤竹次郎による醤油醸造関係。明治五年～一〇年頃。茂木店より撤退したのちも小澤家は、大笹原で醤油醸造を行っていた（新1―5）。

新2…新蔵二階に保管されていた典籍類。謡台本、医学系の書籍、俳諧関係、地理・歴史書など。近世～近代初頭。

F. 米

米蔵に保管されていた文書。明治～昭和期の年代分布を示す。

米1…明治期布告・布達。領収書。

米2…○明治期布告・布達。

○浄勝寺講関係。

○明治五年～二〇年ごろの醤油醸造関係。

米3…新聞。明治後期～大正期。

米4…書籍・学校教科書。明治後期～昭和初期。

米5…○大福帳、売米帳簿。明治後期からのもの。

○明治後期書状類、書籍類。一括文書。

米6…木札など。

米7…○大正期～昭和一五年ごろまでの勘定帳。

○縁談関係書状。昭和二七年前後。

米8…近江八幡善住寺富くじ。断簡類。

IV・本文書群の関係文書ならびに関係文献

一・関係文書

- ①大篠原区有文書。野洲市歴史民俗博物館所蔵。
- ②島崎家文書（栃木県芳賀郡茂木町）。小澤家同様に下野国茂木に進出した近江商人の家の文書。『栃木県史』『茂木町史』に収載されている。

二・関係文献

- 大篠原郷土史編集委員会『近江 大篠原の歴史』大篠原区発行、二〇〇三年七月。
- 野洲町総務部企画室編『野洲町史』（一九八七年）
- 茂木町史編さん委員会編『茂木町史』（一九九五―二〇〇一年）
- 古川与志継「一近江商人の凶作記録『天保七年丙申年大凶作書』―近江国野洲郡大篠原小澤七兵衛家文書―」（『東京大学日本史学研究室紀要』第三号、一九九九年）
- 古川与志継「仁正寺藩御勝手方の記録『御勝手御省略写』―近江国野洲郡大篠原小澤七兵衛家文書―」（『東京大学日本史学研究室紀要』第五号、二〇〇一年）
- 小澤七兵衛『童子一百集―小澤蕭鳳の教え―』（自費出版）

V・史料細胞現状記録

(一) 凡例

本目録は、滋賀県野洲市大篠原小澤七兵衛氏所蔵古文書を取めたものである。

史料一点ごとの記述事項は、①史料番号、②表題・内容表題、③内容・書き出し、④年代、⑤作成（差出）、⑥宛所、⑦形態、⑧数量、⑨備考情報、からなっている。

史料一点ごとの記述原則を以下のようにした。

①史料番号（組織単位＋NO.）

史料が保存されていた場所を示す「文・金・母・新・米」の記号と数字が組み合わされた形となっている。箱単位・まとまり単位に枝番号を付与し、史料組織を復元できるようにしている。

②表題・内容表題

表題は、史料表紙に記載されている原表題あるいは柱書を採用した。表題の記載がないが内容から推定した表題が与えられる場合、「[]」で示した内容表題を記した。

③書き出し・内容

史料全体の内容を一〇字から二〇字で「（ ）」内に簡潔に記した。史料の内容が容易に理解しがたい場合には書き出しの数字文字を「[]」内に記し、後日目録と文書を照合しやすいよう配慮した。

④年代

史料から正確な作成年月日が判明する場合には、年月日をアラビア数字に変換の上、表記している。和暦・西暦が不明で干支しか記されていない場合は、干支を史料表記のまま記載した。年代を史料本紙からではなく包紙・封紙や消印などからとった場合、あるいは前後の史料から推測した場合には、「（ ）」でくくって記した。

⑤作成

作成（差出）は基本的に史料の記載どおりにとつたが、肩書きの一部を省略している箇所もある。押印については「（印）」のように表記した。差出人の連名者が複数名いる場合には「他×名」と略記した。封筒・封紙等から作成者（差出）に関する情報が補足できる場合には「（ ）」で補記する形で記載した。

⑥宛所

宛所については「⑤作成」と同様に表記している。

⑦形態

形態は、状（状型文書）・縦（縦冊型文書）・横（横長帳型文書）・横半（横小半帳型文書）の略称を用いて史料のおおよその形状を示した。

そのほかに、葉書・包紙・封筒・袋・綴などの表記を適宜用いた。

⑧数量

数量は基本的に1点となるが、複製物がある場合、同一シリーズの史料である場合、複数をまとめた方が目録情報を示すのに適当である場合には、そのまとめた数量を記載している。

⑨備考情報

史料の状態に関する情報や、史料の性質を知る手がかりとなる情報をここに記した。

⑩その他

欠損などにより原記載が判読できない場合には、「□」でその箇所を表し、欠損箇所の字数が推測できる場合は、「□」で字数分を記した。

(二) 目録 (その1)

今号には小澤家文書「組織単位 金」「組織単位 文」の目録を収めた。「組織単位 古」「組織単位 母」「組織単位 新」「組織単位 米」については、紙幅の都合により次号以降に掲載される予定である。

(付記)

なお、史料は小澤家に保存されているが、一般には公開されていない。内容の詳細については、東京大学日本史学研究室吉田研究室までお問い合わせいただきたい。

(11) 目録 (その一)

組織単位	No.	表題・[内容表題]	「書き出し」(内容)	年代	作成→宛所	形態	数量	備考
金1	0	[木箱]		嘉永4年7月2日	求之 小沢七兵衛	箱	1	金1の木箱
金1	1-0	証文[包紙]			→伴氏	包紙	1	くくり紐あり
金1	1-1	覚		天明3年10月	借主茂兵衛・請人惣吉→六右衛門	状	1	
金1	1-2	[書状]	「及月廻候處…」	12月25日	東吉郎→小沢七兵衛	状	1	
金1	1-3	[書状]	「公用書附而已拜見…」	12月20日	東吉郎→小沢七兵衛	状	1	
金1	1-4-0	[包紙]	「八両貸内大小預り…」	万延1年閏3月晦日	彦根領長野村四郎兵衛→請人鏡村金右衛門	状	1	～1-4-2まで一括
金1	1-4-1	覚	(御用達金に付)	万延1年閏3月晦日	小沢七兵衛→長野村酒屋四郎兵衛他1名	状	1	
金1	1-4-2	請合之覚	(大小一腰亮渡に付一件)	万延1年閏3月晦日	鏡村金右衛門→篠原村江戸屋七兵衛	状	1	
金1	1-5-0	[包紙]	「証文入」		芦浦竹内庄八	状	1	～1-5-1まで一括
金1	1-5-1	拝借申金子事		安政6年7月12日	穴村請人四郎右衛門・芦浦借主庄八→篠原小沢七兵衛	状	1	
金1	1-6	覚	(御蔵米御貸下に付)	嘉永4年6月	庄屋(佐右衛門・新左衛門)→小沢七兵衛	状	1	
金1	1-7	借用申金子事	(金20両)	寛政12年7月	小幡本町弥三右衛門→大篠原小沢七兵衛	状	1	
金1	1-8	借用申金子事	(金子1両2歩)	天保3年11月28日	江古仁保喜屋左兵衛→釜屋七兵衛	状	1	
金1	1-9	借用申金子事	(銀53両7分)	文政10年12月	借主八内・友八・権蔵・半三郎→七兵衛	状	1	
金1	1-10	借用申一札之事	(金1両)	文政4年2月	借主喜兵衛・請人源蔵→東組甚八	状	1	
金1	1-11-0	[包紙]	「証文 告通 玉田氏」			包紙	1	～1-11-2まで一括
金1	1-11-1	借用申金子之事	(高80石外買入)		玉田義(カ)助・義之助・山添六兵衛→小沢六左衛門	状	1	
金1	1-11-2	[書状]	「一筆啓上仕候…」(金100両借用に付)	丑11月晦日	玉田善助→小沢六左衛門	状	1	
金1	2	証	(雖一組引宛にて借用に付)	明治8年9月20日	山田忠左衛門→小沢七兵衛	状	1	
金1	3	証	(売家代金受取に付)	明治7年8月12日	西組岸旗三郎→東組御地下中殿	状	1	
金1	4	[包紙]	「上正寺ノ脇元佐治郎家買入証文」	明治7年8月	岸旗三郎より	包紙	1	紙背「委任状」
金1	5-0	[包紙]	「一札 町組地下」			包紙	1	～5-1まで一括
金1	5-1	差入申一札之事	(町内頼母子に付)	安政7年3月	町組地下講元伊助他8名→小沢七兵衛	状	1	
金1	6	[包紙]	「岡田氏頼母子勘定方に付親類より受合一札」			包紙	1	

組織単位	No.	表題・[内容表題]	「書き出し」(内容)	年代	作成→宛所	形態	数量	備考
金1	7	差入申一札之事	(相統購取籍に付)	明治7年1月	講元岡田平兵衛・親類岡田伊三郎他2名→小沢七兵衛	状	1	
金1	8-0	[包紙]	「証 町地下」			包紙	1	～8-1まで一括
金1	8-1	差入申一札之事	(仕法購に付)	安政7年3月	町地下喜左衛門他8名→西組地下人忠次郎他2名・東組地下人重兵衛他2名・岩倉組地下人甚右衛門地下人他2名・庄屋平兵衛・年寄小右衛門他2名・取締小沢七兵衛	状	1	
金1	9-0	[包紙]	「六左衛門送り状一札」			包紙	1	～9-1まで一括
金1	9-1	宗旨送り手形之事	(田中村井口三郎右衛門に付)	嘉永3年2月	井口三郎右衛門他2名・宇山宿人光寺→大篠原村庄屋新右衛門・年寄弥三郎	状	1	
金1	10-0	[包紙]	「具足讓受書付三通」			包紙	1	～10-2まで一括
金1	10-1	覚	(具足代受取)	嘉永3年5月19日	野洲村請入遠藤次郎右衛門・鏡村刀屋喜六→小沢七兵衛	状	1	
金1	10-2	譲り状之事	(具足に付)	嘉永3年5月19日	大嶋井安田・仕法方六兵衛→遠藤次郎右衛門	状	1	
金1	11-0	[包紙]	「下野国茂木町店証書」			包紙	1	
金1	11-1	為取替一札之事	(小沢七兵衛戸籍改名に付屋敷地往復の証)	明治7年8月30日	蒲生郡第五区八幡北末町25番屋敷伊藤四郎他1名→大篠原村46番屋敷小澤七兵衛	堅	1	
金1	12-0	[包紙]	「為取替証書」			包紙	1	
金1	12-1	為取替一札之事	(茂木店釜屋七兵衛跡相統讓り受)	明治1年9月	八幡寺内北末町讓受人近江屋藤田四郎他1名→大篠原村小澤六左衛門	状	1	
金1	12-2	為取替証文	(同行科玄米進納に付)	明治10年10月12日	蒲生郡第十五区日野大窪町嶋崎利兵衛他2名→大篠原村小澤七兵衛	状	1	
金1	13-0	[包紙](半紙)				包紙	1	
金1	13-1		「上ノ八百両御月割金…」(報徳仕法計算書カ)			状	1	
金1	13-2	年済金証文之事	(月割上納金返済に付)	天保2年4月	稲田理兵衛他5名→小沢十兵衛	状	1	奥書あり・端裏書あり
金1	14-0	[包紙]	「書付」			包紙	1	
金1	14-1		「其方儀七兵衛代より」(上下着用差免)	亥12月13日	→釜屋新介	状	1	

組織単位	No.	表題・[内容表題]	「書き出し」(内容)	年代	作成→宛所	形態	数量	備考
金1	15-0	[包紙]				包紙	1	
金1	15-1	書付	「書付」(若殿様御乗出御祝儀に付奇特の旨)	西6月	秋田助太夫・中村勘農衛→小澤七兵衛	状	1	
金1	16	借入金之事	「黒羽出店釜屋十兵衛より証文致し」	文化11年1月	片岡富次右衛門・関口津藏→茶屋七兵衛・栄屋泉司	状	1	
金1	17-0	[包紙]				状	1	
金1	17-1	奉公人証文之事	(彦右衛門醬油商売見習奉公に付)	天明8年2月	大豆田村証人源藏→釜屋十兵衛	状	1	
金1	17-2	借入金金子之事	(金1両)	天明4年4月28日	佐良土間屋与惣左衛門他1名→黒羽釜屋佐平治・茂兵衛	状	1	
金1	17-3	添書之事	(金子返済滞りに付)	辰12月	佐良土かし与惣左衛門・政次→釜屋佐平治・惣兵衛	状	1	
金1	17-4	借付仕証文	(金1両1分)	天明4年7月	塩かま村借主幸右衛門他3名→黒羽向町釜屋左平治	状	1	
金1	17-5	米首尾証文	(金1両借用に付)	天明4年7月	塩かま村借主長右衛門・半助他1名→黒羽向町釜屋左平治	状	1	
金1	17-6	借付証文	(金1分)	天明6年12月	塩かま村借主孫兵衛他1名→釜屋十兵衛・取次左平治	状	1	
金1	17-7	覚	(御用金預に付)	天明3年12月	片岡猪右衛門他2名→釜屋七兵衛	状	1	写
金1	17-8		「巳三月廿六日三…」(請取)	巳3月26日		状	1	
金1	17-9	相定申一札之事	(建家諸道具等売渡に付)	寛政5年8月	野州茂木町釜屋七兵衛・代藤兵衛→黒羽向町奈良屋吉兵衛・同所御立合近江屋平右衛門	状	1	
金1	18	覚	(御用金借用に付)	天保2年2月	中村市郎右衛門→小沢七兵衛	状	1	写・裏書あり
金1	19	田畑名高覚		文化13年		堅	1	
金1	20-0	[包紙]	「酒株 書付」		釜屋七兵衛	包紙	1	
金1	20-1	御達書	(酒造株鑑札交付に付)	天保14年1月	役所→藤縄村酒造人七兵衛	状	1	
金1	21	覚	(御払米代先納金受取に付)	天明7年未9月12日	岡多兵衛→釜屋七兵衛	状	1	
金1	22	覚	(御用金預りに付)	文化1年6月	片岡富左衛門・関口津藏→釜や七兵衛	状	1	
金1	23	永代売渡し申家舗之事	(金10両にて)	文化7年12月	売主彦右衛門他2名→釜屋七兵衛	状	1	庄屋大喜・惣八の奥印
金1	24	[包紙]	「此書付二通勘兵衛…」			包紙	1	

組織単位	No.	表題・[内容表題]	「書き出し」(内容)	年代	作成→宛所	形態	数量	備考
金1	25	預申金子証文之事	(御類焼に付御用)	天明6年5月	片岡猪右衛門他2名→釜屋七兵衛	状	1	
金1	26	覚	(御類焼に付御用)	文化3年5月	片岡猪右衛門・関口湛藏→よこ丁釜屋七兵衛	状	1	
金1	27	[書付]	「此度御趣法之御趣意…」		小沢七兵衛	状	1	
金1	28		「天保七申四月廿六日此書付」 (御用達金返上に付)	天保7年4月26日		状	1	
金1	29	議渡申証文之事	(酒林保に付)	天保5年7月	藤瀬村世話入田中弥右衛門他4名→小沢七兵衛	状	1	裏書アリ
金1	30	預り申籠石金子之事	(30両時貸しに付)	天明7年2月	片岡猪右衛門他2名→釜屋七兵衛	状	1	裏書あり
金1	31-0	[封紙]	「金十五両献金之受取」			封紙	1	
金1	31-1	献納金請取之通		辰10月20日	稲田彦九郎他2名→小沢七兵衛	状	1	
金1	32-0	[包紙]	[書付]			状	1	
金1	32-1		「小沢七兵衛…」(御勝手御用 相勤に付除地)	酉6月	秋田助大夫・中村勸農衛→小沢七兵衛	状	1	
金1	33	[書]	「恭候持已」		小沢開囀(カ)	布	1	
金2	0	[木箱]	「御書附小沢七兵衛」			箱	1	
金2	1	[書状]	「御自分儀旧來御勝手御用相 弁罷在候処」	3月11日	→小沢七兵衛	状	1	
金2	2	上	「覚 一 金三百両江戸小細 町三丁目釜屋治左衛門より返 金」	天保7申年4月	小沢七兵衛	横	1	
金2	3-0	[包紙]		弘化2年巳3月27日		包紙	1	
金2	3-1	覚	「江戸御原屋敷御普請二付金 百両」	丑3月24日	関口憲兵衛→釜屋七兵衛	状	1	
金2	3-2	覚	「一 金貳拾五両」(此度類焼 に付上納金受取)	巳3月27日	片岡猪右衛門他2名→小沢七兵衛	状	1	
金2	3-3		「江戸御原屋敷御普請献納金 請取通」(上納金受取)	弘化2年巳巳3月	三岡金三郎→小沢七兵衛	状	2	折紙
金2	4-0	口上書覚[包紙]				包紙	1	

組織単位	No.	表題・[内容表題]	「書き出し」(内容)	年代	作成→宛所	形態	数量	備考
金2	4-1		「口上二而被仰付候文政十二年三月」(苗字・帯刀被仰付に付請書)		小沢七兵衛征美→御奉行関口湛藏他4名	状	1	
金2	5-0	[包紙]	「茂木御役所二而御給人格」			包紙	1	
金2	5-1	被仰付候覚書	(沼津御貸金に付給人格被申付)	天保5年4月28日		状	1	
金2	6-0	[包紙]	「書付 七兵衛江」			包紙	1	
金2	6-1		「文政七甲申年十二月九日」	文政7年12月9日		状	1	
金2	6-2		「其方事今般帯刀御免被成下候事」	12月9日	→釜屋七兵衛	状	1	
金2	6-3	覚	(鈴木氏縁談請入用金受取)	天保3年5月3日	大根田村徳藏→三右衛門・仙右衛門	状	1	
金2	7-0	[包紙]	「書付 釜屋七兵衛」			包紙	1	
金2	7-1		「文化五丁卯年十二月…」			状	1	
金2	7-2		「其方御用達相動候二付」(扶持方一人分下置かれ)	12月11日	→釜屋七兵衛	状	1	
金2	8-0	[包紙]	「受取書」			包紙	1	
金2	8-1	記	(小沢家先祖書霊書へ御備受納)	明治20年1月	安養寺住僧見和峯→嶋崎泉治殿御中	状	1	
金2	9	乍恐以口上書奉申上候	(若君様御乗出の獻納金に付)	嘉永1年10月2日	嶋崎泉司代藤吉他1名→取次小堀太左司	状	1	
金2	10	覚	「一金百両也」(御公務御備金の内上納に付)	嘉永5年9月16日	片岡登良輔他3名→小沢七兵衛他1名	状	1	
金2	11-0	御書附写巻通				包紙	1	
金2	11-1		「文政九丙戌年十月十五日」(11-2の説明)			状	1	
金2	11-2		「小沢七兵衛一其方儀勝手用達申附」	10月7日	→小沢七兵衛	状	1	
金2	12-0	口上	「江戸にて 被仰付趣書付覚」			包紙	1	
金2	12-1		「被仰付之趣覚書…」			状	1	

組織単位	No.	表題・[内容表題]	「書き出し」(内容)	年代	作成→宛所	形態	数量	備考
金2	13-0	書状 志通				包紙	1	
金2	13-1	【書状】	【以手紙得御意候】	11月20日	中村勘農衛→小沢七兵衛	状	1	
金2	13-2	口上	【一寸得貴意候然者…】	1月14日	小堀左右司→小沢七兵衛	状	1	
金2	13-3	【書状】	【其元義是迄括別之次…】	12月	→小沢七兵衛	状	1	
金2	13-4		【天保十己亥正月十二日此書付】			状	1	
金2	13-5	【書付写】	【中村勘農衛様より御状…】	亥1月11日		状	1	
金2	13-6	【書状】	【以手紙得御意候】	1月14日	片岡猪右衛門他2名→小堀左右司	状	1	
金2	14-0	書付		弘化2年11月		包紙	1	
金2	14-1		【御自分儀多年御勝手許】(江戸屋敷造営に付き紋付等下さる)	巳11月	御用所→小沢七兵衛	状	1	
金2	15		【天保八丁酉年三月十一日於御役所】(説明書)			状	1	
金2	16	覚	【横町釜屋七兵衛分】(冥加金金2両)	卯29日	御役所	状	1	
金2	17	【書状】	【此度改日三人扶持彼下置候者也】	辰5月	千本小太郎内 副田徳大夫→釜屋七兵衛	状	1	
金2	18-0	書付				包紙	1	
金2	18-1		【其方事去六月中中村失火之節】	亥10月	→釜屋七兵衛	状	1	
金2	19-0	口達書				包紙	1	
金2	19-1	口達書	【近來病身老衰】	9月18日	役所→小沢七兵衛	状	1	
金2	19-2	覚	【一茂木藏六拾表】	□4月3日	[] 平藏(カ)→かまや熊八	状	1	
金2	19-3	覚	【一金三分也】	辰12月29日	御役所→釜屋七兵衛	状	1	
金2	20-0	【包紙】	【書付】		小沢七兵衛	包紙	1	
金2	20-1	覚書	【弘化二巳三月廿日、一金百両…】(献納金柳原御普請等の覚)			状	1	

組織単位	No.	表題・[内容表題]	「書き出し」(内容)	年代	作成→宛所	形態	数量	備考
金 2	20-2	指出申→札之事	「一、此度氏家宿大野屋…」 (下女世話致しに付)	享和3年亥3月2日	亀屋弥兵衛他1名→油屋忠兵衛	状	1	
金 2	20-3		「敵納金御貸付月賦納割合之通」(敵納金の指示)	弘化丙午(3年)1月	小堀左右司→小沢七兵衛	状	1	折紙
金 2	20-4	借用金子証文之事	「一、金三百両也。右を此度無據金子御入用…」(御難縁出金外ニ御下知の写)		御蔵方稲田理兵衛他6名→小沢七兵衛	状	1	端裏書あり
金 2	21	覚	「一、金六両也」(請取証文)		日本橋通→丁目近江屋三郎右衛門→畿右衛門	状	1	
金 2	22-0	[包紙]	「文政元戊寅九月御下屋敷御類焼ニ付」			包紙	1	
金 2	22-1	覚	「一金式十両也」	寅10月	小堀七郎兵衛他1名→釜屋七兵衛	状	1	
金 2	23	覚	(半切十四枚也、他代金受取)	天保8年12月22日	永島四兵衛→小澤七兵衛	状	1	
金 2	24-0	[包紙]	「証文 文政五年六月改」			包紙	1	
金 2	24-1	証文之事	(五ヶ年間利息米用捨に付証文)	文政5年6月	沢村源五右衛門、大谷津求馬→釜屋七兵衛	状	1	奥書、裏書あり
金 2	25-0	[包紙]	「辰三月廿三日 金三拾両」			包紙	1	
金 2	25-1	覚	(月割先納加入金預りに付)	辰3月22日	釜屋七兵衛→片岡氏	状	1	「野洲茂木町釜屋」の印あり
金 2	26-0	[包紙]	「御殿様御下知書」			包紙	1	
金 2	26-1		「御役所より…」(別紙の通りすべきに付 達)	4日	小い(カ) 出久兵衛→釜屋七兵衛	状	1	
金 2	26-2		「御勝手引受ニ付…」(御勝手引受の書付送上命令)	8月4日	役所→指(カ) 行所	状	1	
金 2	27	覚	(御買地に相渡9両内借に付)	安永3年11月2日	横町汜屋岸(カ) 次郎他1名→釜屋八兵衛殿	状	1	
金 2	28	覚	(金拾両受取)	7月9日	役所→小沢七兵衛	状	1	
金 2	29-0	[包紙]	「金百両上切手形」			包紙	1	
金 2	29-1	覚	(金百両借用に付)	未12月27日	門屋左司衛門→釜屋七兵衛	状	1	
金 2	30-0	書付 志通 [包紙]				包紙	1	

組織単位	No.	表題・[内容表題]	「書き出し」(内容)	年代	作成→宛所	形態	数量	備考
金2	30-1		「釜屋七兵衛…」(町年寄格申し付け)	12月	→釜屋七兵衛	状	1	
金2	31-0	[包紙]	「上下代金三百匹 小沢七兵衛」	安政4丁巳年8月	茂木 細川長門守→小沢七兵衛	包紙	1	作成者は貼紙によりわかる。
金2	31-1		「小沢七兵衛」(普請金献納受取り)	8月	→小沢七兵衛	状	1	
金2	32-0	書付 [包紙]				包紙	1	
金2	32-1		「釜屋七兵衛」(帯刀御免)	10月24日	→釜屋七兵衛	状	1	
金2	32-2		「文政六 癸未年十月二十四日…」(呼出し奉行三名の名)	文政6癸未年10月24日頃		状	1	
金2	33	年越手形之事	「一 金五百両也」	寛政12庚申年12月	馬込久藏、関口灌藏→釜屋七兵衛	状	1	
金3	0	[木箱]				木箱	1	
金3	1-0	[包紙]	「一札」			包紙	1	～19-1-1まで一括
金3	1-1	覚	(御用達金証文差寄せ二付一札)	天保7年4月	上田正太郎、秋田清七郎、片岡猪右衛門、岡勘兵衛→小沢七兵衛	状	1	
金3	2-0	[包紙]	「書付 安養寺」			包紙	1	～19-2-2まで一括
金3	2-1	流地買請細手形之事	(上畑など金3両にて)	文政4年1月	買主吉兵衛、組内金兵衛、他2名→釜屋七兵衛	状	1	
金3	2-2	[包紙]	「瀧下畑砂田酒屋…」			包紙	1	紙替「書状」
金3	3-0	[包紙]	「御城山畑売渡し申手形…」			包紙	1	～19-3-2まで一括
金3	3-1	山之事	(山売渡しニ二付)	明和5年4月16日	小井戸村売主 清次郎他3名→横町釜屋 七兵衛	状	1	
金3	3-2	為替取細証文之事	(山畑金分にて)	文政4年4月	買主吉兵衛 他3名→釜屋七兵衛	状	1	加判2名アリ
金3	4	相渡之申山手形事	(写)	安永7年5月7日	横町売主 七兵衛、立合小井戸村 平兵衛→小井戸村玉上 新六	状	1	加判3名
金3	5-0	[包紙]	「御達書 藤縄村 酒造人七兵衛」			包紙	1	

組織単位	No.	表題・[内容表題]	「書き出し」(内容)	年代	作成→宛所	形態	数量	備考
金3	5-1	口上之覚	(養子家督相続二付 御用達 継承願)	6月	小沢七兵衛→中勇三、上正太郎他2人	状	1	
金3	6-0	[包紙・写]	「御預入証文之事」			包紙	1	
金3	6-1	御預金 [] 之事	(金80両)	嘉永1年12月	嶋崎泉司、小沢七兵衛→御役所	状	1	虫摺大
金3	6-2	御預金 [] 之事	(金80両)			状	1	6-1のコピー
金3	7-1		「釜屋 七兵衛」(地面永代被下置二付)	文政7年8月	岡口湛蔵、片岡猪右衛門、片岡喜次右衛門	状	1	
金3	7-2	書付	(年貢免除二付)	文政7閏8月	岡口湛蔵、片岡猪右衛門、片岡喜次右衛門	状	1	
金3	7-3	相渡申手形之事	(屋敷地に付)	宝暦4年4月15日	藤組村檢行 押久保 半助 年寄田中弥右衛門、高村吉兵衛→横町釜屋 七兵衛	状	1	裏書アリ
金3	7-4	永代ニ売渡シ申家屋敷之事	(30町にて売り渡し)	享保4年2月5日	横町 売主 丈右衛門他2名→市場村馬込 弥五右衛門	状	1	加判アリ
金3	7-5	永代ニ売渡シ申家屋敷之事	(21町2分にて売り渡し)	享保4年1月23日	売主 石井丈右衛門他2名→宇都宮新宿町 釜屋七兵衛	状	1	加判アリ
金3	7-6	覚	(除地二付)	天保5年7月	関口武兵衛、他2名→小沢七兵衛	状	1	
金3	8-0	[包紙]	「証文 塩(分)田山 一通」			包紙	1	～19-8-1まで一括
金3	8-1	借用金子証文之事	「一、金貳百両也」(本堂再建に付)	弘化3年12月	借主 能持院、御奉行 井戸東四郎他2名→金主 小沢七兵衛、嶋崎泉司	状	1	「御家老 中村勘農衛」奥印
金3	9	有合ニ売渡申田地之事	(金3町にて)	宝暦8年2月	横町 売主 幸七、他2名→釜屋七兵衛	状	1	
金3	10	立替金渡帳		弘化3年12月	小沢七兵衛→塩田山副寺	横	1	
金3	11-0	[包紙]	「館ノ畑売渡し申候所」			包紙	1	～19-11-1まで一括
金3	11-1	流地ニ買請申畑之事	(金子5両にて)	文政6年2月25日	小井戸村買主武左衛門他5名→横町釜屋 七兵衛	状	1	
金3	12-0	[包紙]	「酒造株譲渡証文芸通」			包紙	1	
金3	12-1	覚	(酒桶、酒船売渡し二付)	天保10年11月	永島由兵衛→小沢七兵衛	状	1	
金3	12-2	差上申御証文之事	(酒桶取上げ二付)	宝暦8年10月27日	芦沼村庄屋 藤蔵 他3名→御役所様	状	1	裏書アリ

組織単位	No.	表題・[内容表題]	「書き出し」(内容)	年代	作成→宛所	形態	数量	備考
金3	13-0	[包紙]	[坂井畑手形藤兵衛殿分]			包紙	1	～19-13-1まで一括
金3	13-1	相渡申畑手形之事	(金4両にて)	宝暦8年9月	横町地主 藤兵衛 他1名→釜屋七兵衛	状	1	
金3	14-0	[包紙]	[会下絹箱坂道之東畑手畑]			包紙	1	～19-14-1まで一括
金3	14-1	流地買受田畑之事	(金2両にて)	文政6年11月	売主榎木村 庄介 他2名→釜屋七兵衛	状	1	奥書あり 庄屋新右衛門
金3	15-0	[包紙]	[紋形]			包紙	1	
金3	15-1		[一](▽▽)			状	1	
金3	16-0	[包紙]	[坂田安養畑之手事]			包紙	1	～19-16-2まで一括
金3	16-1	覚	(畑方御年貢 他書上)	3月1日	垣田喜蔵→釜屋七兵衛	状	1	
金3	16-2	有合売渡畑証文之事	[一金三両也]	享和3年3月1日	売主喜蔵 他2名→横町釜屋 七兵衛	状	1	
金3	17-0	[包紙]	[田畑右手形入]			包紙	1	
金3	17-1	覚	[一]下畑 九畝十八分]	12月18日		状	1	
金3	17-2	売渡申田地之事	[一]上田畝反 貳畝拾歩]	寛保2年7月	売人 幸助 他2名→坂田五郎左衛門	状	1	
金3	17-3	相渡申田畑之事	[右之田畝反四畝拾五歩…]	延享4年12月24日	請人孝七 他2名→釜屋七兵衛	状	1	加判あり 五郎左衛門
金3	17-4	覚	[一]老阿老分八文] (割付上納金覚)	7月8日	庄屋 重右衛門→横町 七兵衛	状	1	
金3	17-5	借用申金子之事	[一金三両也] (上畑三畝九歩)	明治7年4月12日	売主 南八 他1名→七兵衛	状	1	加判 重右衛門
金3	17-6	借用申手形之事	[金子合三両也] (畑三枚)	寛保1年12月30日	借主 伊惣治 他1名→釜屋七兵衛	状	1	
金3	18-0	[包紙]	[新地畑申二月より…]			包紙	1	～19-18-2まで一括
金3	18-1		[上々畑四七十三歩…] (年貢割付下書)			状	1	

組織単位	No.	表題・[内容表題]	「書き出し」(内容)	年代	作成→宛所	形態	数量	備考
金 3	18-2		「上々畑四七拾三歩…」 (年貢割付)			状	1	
金 3	19-0	[包紙]	「酒株御印鑑并御書附志通…」			包紙	1	～19-19-1まで一括
金 3	19-1	[包紙]	「田畑遣之手形入…」			包紙	1	
金 3	20	借用申金子之事	「一金式両也」	弘化2年6月日	当人 井戸東四郎→小澤七兵衛	状	1	
金 3	21		「小沢七兵衛(印)」			状	1	前欠力
金 3	22-0	御印鑑			春田次郎助→沢村源右衛門	状	1	
金 3	22-1	印鑑			千本小太郎	状	1	
金 3	23-0	[包紙]	「千本様ヨリ被下包紙」			包紙	1	
金 3	23-1	[包紙]	「扶持方式人分」			包紙	1	
金 3	23-2	[包紙]	「紋付小袖金五百疋」			包紙	1	
金 3	23-3	[包紙]	「御肴 金貳百疋」			包紙	1	
金 3	23-4	[包紙]	「上下 金三百疋」			包紙	1	
金 3	24-1	年季ニ先渡申島之事	(金14両にて)	安永3年11月7月	売主横町 沢屋幸四郎他1名→釜屋七兵衛	状	1	
金 3	24-2	覚	「一上田」			状	1	後欠
金 3	24-3	覚	「一上田貳十貳間…」	未2月20日		状	1	
金 3	24-4		「一上田貳十四間」			状	1	前欠
金 3	24-5	覚	「一田三段」			状	1	
金 3	25	永代先渡申畑之事	(金2両2分)	享保7年3月15日	吉左衛門 他4名→釜屋七兵衛	状	1	
金 3	26	金子借用證文之事	(金十両)	弘化3年5月22日	石井孫兵衛 他1名→小沢七兵衛	状	1	
金 3	27-0	[包紙]	「天子村畑手形」			状	1	
金 3	27-1	被渡申質地證文之事	(上畑六畝)	文化3年寅	天子村質主 新左衛門 他2名→釜屋七兵衛	状	1	
金 3	28		「小沢七兵衛(印)」 (牀の差出書判切取)			状	4	
金 3	29-0	[包紙]	「瀧下畑證文」			包紙	1	

組織単位	No.	表題・[内容表題]	「書き出し」(内容)	年代	作成→宛所	形態	数量	備考
金 3	29-1	年季元渡畑証文之事	(金拾両)	文化1年3月日	槻(カ)木村 売主金二郎 他1名→釜屋七兵衛	状	1	
金 3	29-2	年季元渡畑証文之事	(中畑五畝)	文化1年3月	沖屋売主金二郎 他1名→釜屋七兵衛	状	1	
金 3	29-3		「一中畑五畝」			状	1	
金 3	30	永代元渡シ申畑之事	(金2両2分にて)	享保7年3月2日	売主 茂左衛門 他4名→かまや七兵衛	状	1	
金 3	31		「小沢七兵衛(印)」 (状の差出書判切取)			状	2	
金 3	32-0	[包紙]	「証文 柏屋仁平治様より」			包紙	1	
金 3	32-1	譲渡申証文之事	(酒林志本)	文政9年6月	小源村 仲立人 理右衛門 他4名→茂木横町 仁平治殿	状	1	奥書あり、裏書あり
金 3	33-0	[包紙]	「証文一通」			包紙	1	
金 3	33-1	永代譲渡家屋敷証文之事	(金24両)	文政12年12月	売主 高村錦平 他8名→小沢七兵衛	状	1	奥書あり、端裏あり
金 3	34	借用申金子証文之事	「一 金式阿也」	弘化3年10月	借主 三宅左織 他1名→小沢七兵衛	状	1	
金 3	35	[包紙]	「証文 金二両井戸東四郎様」			包紙	1	
金 4	0	[木箱]	「古証文色々」			箱	1	
金 4	1-0	[包紙]	「安養寺書附三通 別家釜屋新兵衛書附志通」			包紙	1	
金 4	1-1	[綴]				綴	1	
金 4	1-1-1	受取覚	(横町屋敷永代相渡すに付)	寛政6年寅5月	大喜藤右衛門→安養寺様、釜屋七兵衛殿	状	1	～19-1-1-3まで一括
金 4	1-1-2		「年季屋敷手形之事」	宝暦9卯3月11日	藤右衛門 他3名→釜屋七兵衛	状	1	
金 4	1-1-3	[書状]	「今朝者御細書拜見…」(永代証文に付)		白雄→七兵衛様	状	1	裏書 「七兵衛様 白雄」
金 4	1-2	取替一札之事	(塩蔵他代に付)	寛政7卯2月	筒屋藤蔵 他2名→釜屋七兵衛	状	1	端裏書あり
金 4	1-3		「永代院号居士致許容」	文政7甲申年2月	安養寺 他1名→小沢七兵衛	状	1	

組織単位	No.	表題・[内容表題]	「書き出し」(内容)	年代	作成→宛所	形態	数量	備考
金4	1-4	請求一札	(金10両・施入金に付)	安永6年5月7日	安養寺→釜屋七兵衛	状	1	
金4	2-0	[包紙]	[証文 安養寺]			状	1	
金4	2-1	相渡申一札之事	(拙僧移転に付)	明和6年巳丑10月	安養寺 実源叟→小澤七兵衛	状	1	
金4	3-0	[包紙]	[証文 惣檀中右]			包紙	1	
金4	3-1	覚	「客殿建立御企可被下候」	明和6巳丑年10月	大喜藤右衛門 他12名→安養寺 実源和尚	状	1	
金4	4-0	[包紙]	「一札」			包紙	1	
金4	4-1	差出申一札之事	(稲田理兵衛娘・柏屋家人に付)	文政6年8月	田中弥右衛門・天谷儀右衛門・越智院→柏屋満左衛門・親類同平八・本居釜屋七兵衛	状	1	
金4	5-0	[包紙]	「書付 小沢七兵衛」			包紙	1	
金4	5-1	口達書	(御用弁出精二付 御掛物下置れ)	安政2年5月	役所→小沢七兵衛	状	1	
金4	6	書付	(酒造俵御改二付)	天保8年12月	酒造掛り 小松延治・中村雄弥→藤縄村 釜屋七兵衛	状	1	
金4	7	[包紙]	「山手形宮本人 清治郎」			包紙	1	
金4	8	覚	「一、判御米三百俵…」	寛10月29日	須賀川 内藤源之助・六右衛門→茂木釜屋七兵衛 御手代 忠藏 奥四ヶ所 関東屋 幸左衛門、御取次	状	1	
金4	9-0	[包紙]	「離縁状一札」			包紙	1	
金4	9-1	離縁状之事	(「しけ」に付)		幸吉→釜屋七兵衛	状	1	
金4	10	米前充借申手形之事		天保6年1月	中根村年寄安兵衛ほか13人→釜屋七兵衛	状	1	御元平野徳治の奥印
金4	11-0	[包紙]	[証文 啓通]			包紙	1	
金4	11-1	永代売渡申家屋舗証文之事	(金50両)	文化10年11月	売主横町善藏ほか2人→釜屋七兵衛	状	1	
金4	12-0	[包紙]	「五十両 千本」			包紙	1	
金4	12-1	相渡申規定一札	(旦那勝手向月割入用金指支に付)	天保4年5月	千本小太郎内副田猪太夫→釜屋七兵衛	状	1	
金4	13	覚	(蔵米賦買に付)	酉年11月23日	(真岡荒町)塚田茂右衛門→釜屋七兵衛	状	1	

組織単位	No.	表題・[内容表題]	「書き出し」(内容)	年代	作成→宛所	形態	数量	備考
金4	14	永代売渡し申家屋敷之事	(金子21両2分)	享保4年3月23日	売主石井文右衛門・小堀幸右衛門・立合 矢口十藏→宇都宮新宿町・釜屋七兵衛	状	1	加判9人
金4	15-0	[包紙]	[水戸 中川西村…]			包紙	1	
金4	15-1	覚	(利足残金請取)	未年閏12月14日	西野忠左衛門・使 忠太→釜屋仁兵衛ほか2人	状	1	
金4	16	御借入金御返済并御借居覚	(元金75両)	寛政8年11月	千本中根町 口入 名主 丈助→茂木 釜屋七兵衛	状	1	
金4	17	一札之事	(屋敷・蔵敷金に付)	寛政5年6月	釜屋七兵衛代藤兵衛→難波屋惣助・小松屋久右衛門	状	1	
金4	18	覚	(茂木蔵米預り置に付)	西年11月27日	宮田権兵衛→茂木かし釜屋七兵衛・同清兵衛	状	1	
金4	19	覚	(秋成先納に付)	享和1年9月1日	庄屋高村吉右衛門→釜屋七兵衛	状	1	
金4	20	覚	(高田米預り置に付)	未年2月12日	(黒羽向町)上川岸源左衛門→茂木町七兵衛	状	1	
金4	21	覚	(茂木蔵米に付)	西年12月19日	(野州中里)鶴見平蔵→かまや清兵衛・塚田茂右衛門	状	1	
金4	22	覚	(茂木蔵米に付)	西年12月2日	(野州中里)鶴見平蔵→かまや七兵衛・惣八	状	1	
金4	23-0	[包紙]	[「居屋敷式間…」]			包紙	1	
金4	23-1	相渡申手形之事	(横町地面永代下置れに付)	宝暦4年4月15日	藤縄村 横断 押久保半助・年寄2人→横町釜屋七兵衛	状	1	裏書7人
金4	24	永代取替申屋敷手形之事	(表口5間、裏行川根まで)	寛政6年6月	取替主安左衛門他2人→釜屋七兵衛	状	1	
金4	25	覚	(時かりに付)	午年1月7日	庄屋源兵衛→釜屋七兵衛	状	1	
金4	26-0	[包紙]	[「千本酒蔵 書付」]			包紙	1	
金4	26-1	相渡申一札之事	(酒蔵借し渡前金に付)	文化5年8月	千本借之主久蔵 他2人→茂木町釜屋七兵衛代幸八・難波屋太助	状	1	
金4	26-2	為取替申一札之事	(酒俵并酒蔵諸道具借し渡に付)	文化5年8月	千本借之主久蔵 他2人→茂木町釜屋七兵衛代幸八・難波屋太助	状	1	
金4	27	仕切状之事	(米千三百俵うけとりに付)	西年12月22日	(野州七井)田谷鐵左衛門→釜屋七兵衛	状	1	
金4	28	覚	(金子うけとり)	8月10日	石河保右衛門・棚野五左衛門→釜屋善助	状	1	
金4	29	相渡し申一札之事	(五左衛門土蔵売渡しに付)	宝暦3年2月24日	売主五左衛門他2人→釜屋七兵衛・大工喜兵衛	状	1	
金4	30	相渡申一札之事	(田中弥右衛門娘に付)	文化7年11月	壬生真光寺隠居世話人善口・小松甲斐守→立合庄屋 大喜宗八様・田中弥右衛門殿御組合中	状	1	

組織単位	No.	表題・[内容表題]	「書き出し」(内容)	年代	作成→宛所	形態	数量	備考
金4	31	永年季二壳渡申家屋敷之事	「一 表口三方裏形町並之所」	延享2年3月23日	壳主十兵衛ほか2名→釜屋七兵衛	状	1	奥印あり
金4	32	口演	(金拾両御時借)	午年4月15日	中瀬久兵衛→釜屋七兵衛・御代官様	状	1	
金4	33	覚	(高田米弍百俵預)	安永4年未3月27日	黒羽町上川岸源左衛門→茂木町釜屋七兵衛代久兵衛	状	1	
金4	34	伊勢講壳渡申証文之事	「一 金壹両弍分也」	文化辛未年7月	大明壳主高村吉左衛門ほか1名→小沢七兵衛	状	1	
金4	35	相定申庭銭之事	(庭銭1駄に付5文宛)	延享2年1月	大せかし間屋勘兵衛→釜屋七兵衛ほか3名	状	1	奥印、端裏書あり
金4	36-0	[包紙]	[米千三百俵…]			包紙	1	包紙
金4	36-1		[大豆五斗…]・(大豆・小麦・楮代金書上)			状	1	
金4	37	預手形之事	「一 小麦百俵」	申年8月15日	砂山かし池田伝藏→茂木町釜屋七兵衛	状	1	
金4	38	覚	(米代金計算書)	午年3月19日	屋代甚兵衛→釜屋七兵衛代久兵衛	状	1	
金4	39	仕切之事	「一 三百五拾文…」	戊年1月24日	鶴見平藏(野州中里)→かまや七兵衛・熊八殿	状	1	
金4	40	永年季壳渡申屋敷事	「一、表三間裏行町並之所」・(屋敷壳渡し証文)	延享4年2月26日	藤瀬村横町壳主六兵衛他4名→かまや七兵衛	状	1	
金4	41	一札離縁状・[包紙]	「福手屋藤兵衛田中娘離縁状也」			包紙	1	
金4	42	覚	「一、茂木蔵米弍百俵」・(積送り状)	酉年12月11日	鶴見平藏(野州中里)→釜や七兵衛他1名	状	1	
金4	43	壳渡シ申伊勢講証文之事	「一、金壹両弍歩也」・(片町伊勢講壳渡しに付)	文政5年午11月	壳主宗七他3名→釜屋七兵衛	状	1	
金4	44	為取替申一札之事	「酒床并酒蔵諸道具別紙之通…」・(借用証文)	文化5辰年8月	千本借主久兵衛他1名→釜屋七兵衛他2名	状	1	
金4	45	永代壳渡シ申家屋敷之事	「一、表口五間…」・(壳渡証文)	享保4年2月5日	横町壳主丈右衛門他2名→市埦村駒込弥五右衛門	状	1	
金4	46	覚	「一、土(?)曲道具」・(壳渡証文)	辰年7月29日	千本町釜屋惣八→茂木町釜屋七兵衛代多助	状	1	
金4	47	書付	「一、年買本銭ハノ三百九文」・(藤縄村小井戸村年貢免除高の書付)	文政7甲申年間8月	関口灌藏外2名→釜屋七兵衛	状	1	

組織単位	No.	表題・[内容表題]	「書き出し」(内容)	年代	作成→宛所	形態	数量	備考
金4	48	覚	「一、茂木御蔵米三百俵」(預り証文)	明和3年庚1月23日	久保田河岸 伊地五郎兵衛→茂木町釜屋七兵衛	状	1	
金4	49	覚	「一、茂木御蔵米貳百三十七俵」(預り証文)	酉年12月2日	久保田河岸 宮田権兵衛→釜屋七兵衛他1名	状	1	
金4	50	覚	(受取証文)	明和2年12月	かまや七兵衛→御役所様	状	1	
金4	51	覚	「一 茂蔵米八拾四俵」	酉年12月11日	久保田河岸 宮田権兵衛→茂木町釜屋七兵衛ほか1名	状	1	
金4	52	相定申庭錢之事	(正月より番錢庭錢共壹駄二付五文)	延享2年1月20日	大瀬川岸 問屋勘兵衛→茂木町釜屋七兵衛ほか3名	状	1	端裏書有り
金4	53	為取替申一札事	(酒造株借用証文)	文化5年7月	釜屋七兵衛ほか2名→千本町 酒造主久蔵	状	1	奥裏書有り
金4	54	[包紙]	[手形入 大喜藤二部]			包紙	1	
金4	55	[包紙]	[「午十二月黒羽受取書」]			包紙	1	
金4	56	引替証文之事	(他所書入金子証文)	文化3年1月	駒込屋安左衛門→釜屋七兵衛	状	1	端裏書有り
金4	57	[包紙]	[「大沢村円通寺請取証文」]			包紙	1	
金4	58	覚	(来迎住寄付金受取付)	12月11日	円通寺役者→釜屋七兵衛	状	1	

組織単位	No.	表題〔内容表題〕	「書き出し」(内容)	年代	作成→宛所	形態	数量	備考
文04	0	牧村芦浦村田地証 文箱		安政5年1月20日		木箱	1	内底に「安政五戊午 正月廿日造之細工人 出町平蔵老人手間」
文04	1-0	〔くくり紐〕				紐	1	
文04	1-1-1	證	〔借用金子皆済に付〕	明治3年12月9日	西川一平→大沢元左衛門	状	1	～1-1-2まで一括、封 紙あり
文04	1-1-2	覺	〔金子用違手違いに成、下書反 古とすべき旨〕	安政4年5月	久松玄蕃→守山宿山本多右衛門・小篠原村 鈴木小 右衛門	状	1	
文04	1-2	覺	〔金50兩預り〕	元治1年11月18日	小沢七兵衛→芦浦村 西川一平	状	1	
文04	1-3	覺	〔利足金受取〕	子年11月18日	西川一平・片岡善一郎→小沢七兵衛	状	1	
文04	1-4-0	〔くくり紐〕				状	1	
文04	1-4-1	覺	〔買物永徳絵画差出に付〕	文久1年3月28日	芦浦 久松玄蕃・西川一平→小沢七兵衛	状	1	封紙あり
文04	1-4-2	〔包紙〕	〔金14兩2匁(▽△)3未入〕		あし浦 久松玄蕃・西川一平→大篠原 小沢七兵衛	状	1	
文04	1-4-3	〔書状〕	〔以手紙啓上仕候春暖之節 …〕・〔借金・買物の件に付〕	3月15日	西川一平・久松玄蕃→小沢七兵衛	状	1	
文04	1-4-4	〔書状〕	〔御尊書被下奉拜読…〕・〔約束 の金子入手、他〕	3月15日	小沢七兵衛→久松玄蕃・西川一平	状	1	
文04	1-4-5	〔書状〕	〔以手紙啓上仕候…〕・〔右衛 門買物承知の札、他〕	3月26日	久松玄蕃・西川一平→小沢七兵衛	状	1	
文04	1-4-6	〔書状〕	〔以手紙啓上仕候…〕・〔金子30 兩請取方に付〕	3月28日	久松玄蕃・西川一平→小沢七兵衛	状	1	
文04	1-4-7-1	〔書状〕	〔以寸筆奉啓上候い、金子借用、 狩野永徳屏風買物として渡し た旨〕	3月晦日	久松玄蕃・西川一平→小沢七兵衛	状	1	
文04	1-4-7-2	〔書状〕	〔御筆…〕・〔買物の屏風、軸物 落手〕	3月29日	小沢七兵衛→西川一平・久松玄蕃	状	1	
文04	1-5	一札	〔平治文蔵庄八より田地72ヶ 所譲請〕	安政5年3月	野州郡大篠原村田地譲請主小沢七兵衛(ほか1人→芦 浦村御地方役人)	状	1	
文04	1-6	差入申一札之事	〔芦浦村の田地小沢購買人に 付御上様よりの下知書渡す 旨〕	安政5年3月	芦浦村買入主平治他10人→御世話人小篠原村小右衛 門他4人	状	1	

組織単位	No.	表題・[内容表題]	「書き出し」(内容)	年代	作成→宛所	形態	数量	備考
文04	1-7	御下知書之事	〔芦浦村観音寺領田地買入に付〕		観音寺内久松他5人→村 平治他4人	状	1	
文04	1-8-0	〔くくり紐〕				紐	1	
文04	1-8-1	〔書状〕	〔以手紙致啓上候…〕(田地一条書付御覽入に付)	3月17日	久松玄蕃→小沢七兵衛様	状	1	包紙入
文04	1-8-2	〔書状〕	〔任幸便致啓上候…〕(3月17、8日の内に当地へ入来に付)	2月12日	久松玄蕃→小沢七兵衛様	状	1	包紙入
文04	1-9-0	〔くくり紐〕				紐	1	
文04	1-9-1-1	差入申一札之事	〔貴殿所持田地を金970両にて引受に付〕	安政2年5月	坪田与次右衛門→東佐市郎殿	状	1	1-9-1-1-2まで1枚に書かれていて、文久3年正月26日証文戻し
文04	1-9-1-1-2	議渡申田地之事	(下書カ)		譲人蒲生郡牧ノ村東佐市郎他4名→野州郡大篠原村小沢七兵衛殿	状	1	
文04	1-9-1-2	覚	(戌年田地諸掛り他書出)	文久3年1月28日	小沢七兵衛→坪田与兵衛殿	状	1	
文04	1-9-2-1	覚	(東佐市郎殿行之金子70両受取)	卯(安政2)年5月11日	絆屋与治右衛門→小沢七兵衛様	状	1	
文04	1-9-2-2	〔書簡〕	〔夜前者参上仕…〕(利得金の金額に付)	卯(安政2)5月28日	坪口与次右衛門→小沢御伯父様・同六左衛門様	状	1	1-9-2-6まで包紙入一括(端裏書)「金百両渡又受申書与二右衛門」
文04	1-9-2-3	約定書之事	(貴殿持分の田地を970両で譲渡に付)	安政2年5月	篠原村小沢七兵衛他1名→東佐市郎殿	状	1	包紙入「牧村田地一条二付書付入牧村諸書付」
文04	1-9-2-4	覚	(田地買入金970両の明細を記す)	安政2年(カ)		状	1	
文04	1-9-2-5		〔板屋長命寺へ行…〕(耕地10ヶ所見分に付覚)	安政2年(カ)		状	1	
文04	1-9-2-6	覚	(礼金・礼物書付)	安政2年5月12日		状	1	

組織単位	No.	表題・[内容表題]	「書き出し」(内容)	年代	作成→宛所	形態	数量	備考
文04	1-9-3		「去極月廿六日 四兩…」			状	1	
文04	1-9-4	覚	(田切)6筆反別・石高・小物成書付)			状	1	(端裏書)「牧田地之事与二右衛門預り」
文04	1-9-5	一札之事	(当村東佐一郎田地貫殿へ譲渡に付小作料納入場所は勝手次第にとの旨)	安政2年5月	蒲生郡牧村庄屋新之丞→野州郡大篠原村小沢七兵衛殿	状	1	(包紙入)「一札」
文04	1-9-6		(卯年～戊年御年賀勘定覚綴)		牧村東新之丞→小沢七兵衛	綴	1	
文04	1-10-0	〔くくり紐〕				紐	1	
文04	1-10-1-1	高印帳		安政4年5月24日	芦浦 竹内庄八	横	1	
文04	1-10-1-2	田畑書分帳		安政3年9月		横	1	
文04	1-10-2	〔書状〕	「以返翰口上申上候…」	巳年6月10日	下拙(カ)→久松玄蕃	状	1	
文04	1-10-3	印鑑	(讓主百姓小作人・親類・庄屋・年寄)			状	1	
文04	1-10-4	譲渡申田地謄文之事	(芦浦村字八田)	安政4年2月	栗太郡芦浦村觀音寺御預讓主百姓小作人平治はるか7名→大篠原村小沢七兵衛	状	1	下書
文04	1-10-5	〔書状〕	「任幸便得…」(体調その他様子伺い)	2月16日	久松玄蕃→小沢七兵衛	状	1	
文04	1-10-6-1	〔書状〕	「御尊書被下…」(先達で拝顔の節失敗申上)	2月8日	小沢七兵衛→久松玄蕃	状	1	1-10-6-2まで一括、封紙あり
文04	1-10-6-2	〔書状〕	(御約条案内并金子持参の上入来下さるべく)	2月8日	久松玄蕃→小沢七兵衛	状	1	
文04	1-10-7	〔書状〕	(田地讓一条之儀)	1月19日	久松玄蕃→八右衛門様	状	1	
文04	1-10-8		「一扇子一箱…」(御礼の品書上)			状	1	
文04	1-10-9	〔書状〕	(小沢御氏一件に付)	5月12日	久松玄蕃→鈴木小右衛門	状	1	
文04	1-10-10	覚	「相徳米一、三拾石二斗二升余…」(相徳米・用達内訳書上)			状	1	

組織単位	No.	表題・[内容表題]	「書き出し」(内容)	年代	作成→宛所	形態	数量	備考
文04	1-10-11	[書状]	(小作人調印猶余に付)	5月晦日	守山駅 山本多右衛門・小篠原 鈴木小右衛門→芦浦 久□(不読)小右衛門	状	1	
文04	1-10-12-0	[包紙]			→大篠原小沢七兵衛様	包紙	1	
文04	1-10-12-1	覚	「一七両三朱八十一文…」・(利足に付)	巳年12月17日		状	1	
文04	1-10-12-2	[書状]	(借用金猶余に付)	12月17日	久松玄蕃→小沢七兵衛様	状	1	
文04	1-10-13-0	[包紙]				包紙	1	
文04	1-10-13-1	一札	「此度其御料方小作人…」・(田地譲請けるに付)	安政4年5月	大篠原村 小沢七兵衛ほか1名→芦浦村御地方久松玄蕃	状	1	
文04	1-10-13-2	[書状]	(田地一件に付)	6月18日	久松玄蕃→小沢七兵衛様	状	1	
文04	1-11-0-1	[包紙]	「芦浦村証文下書数々」			包紙	1	
文04	1-11-0-2	[くくり紐]				紐	1	
文04	1-11-1	[書状下書]	(御田地味に付)	巳年4月9日	小沢七郎兵衛→久松玄蕃	状	1	(端裏書)「芦浦へ下書…」
文04	1-11-2	[書状]	(田地損毛に付)	1月16日	小沢七兵衛→井上八右衛門	状	1	
文04	1-11-3	讓渡申田地証文之事	(ひな形の書上)		芦浦村小作人	状	1	
文04	1-11-4	小作証文之事	(芦浦観音寺領田地)	安政4年5月	橋内村小作人清七(他)→大篠原村七兵衛	状	1	
文04	1-11-5	式百両書付	(芦浦観音寺領田地の件)		観音寺→篠原村小沢七兵衛	状	1	文04-1-11-4と関係カ
文04	1-11-6	[絵図]	(地図カ)			状	1	
文04	1-11-7	実意書之事	(藩主より扶持被下に付)			状	1	
文04	1-11-8	[](不読)取極メ書之事	(村人用等減納規定)		久松→小沢七兵衛	状	1	

組織単位	No.	表題・[内容表題]	「書き出し」・(内容)	年代	作成→宛所	形態	数量	備考
文04	1-1-9	宛田引請小作米苜 浦村観音寺御領見 取場所証文				状	1	下書
文04	1-1-10	質地田地証文之事	(28ヶ所、37石余、200兩受取)	安政4年5月	苜浦村観音寺領質入主ほか→大篠原村七兵衛	状	1	下書
文04	1-1-11	田地小作証文	(苜浦観音寺領田地に付)	安政4年5月	小作人清助ほか→大篠原村七兵衛殿	状	1	下書
文04	2	牧村苜浦村田地帳		安政2年1月	小沢正美	横	1	
文04	3	[不祝儀袋]	「金五拾銭」			袋	1	水引つき
文04	4	[祝儀袋]	「御料理代 金 五十疋」			袋	1	水引つき
文04	5	[金子目録包紙一 括]			小沢六左衛門ほか	包紙	17	くくり紐つき
文04	6	[包紙]	「明治十三年二月廿七日預り …」	(明治13年2月27 日)		包紙	1	裏面にも文字あり、 数回使われたか
文04	7		「上津旅費」(上津旅費2両余 渡し)	3月26日	竹村忠雄→小澤六藏	状	1	(端裏朱書)「三両二 歩吾朱」
文04	8-0	[くくり紐]				紐	1	
文04	8-1	[包紙]	「金貳両三分一朱」(内人用と して玉尾より被下 (ほか))			包紙	1	
文04	8-2	[包紙]	「小魚御式朱」(田中昇様御泊 りに付 (ほか))	(10月6日)		包紙	1	
文04	8-3	[包紙]	「御年玉 上 西本郷村…」			包紙	1	
文04	8-4	[包紙]	「金 七百疋…」(御用多骨折 に付)	末年1月	→小澤七兵衛	包紙	1	
文04	8-5	[包紙]	「金 五百疋…」	末年1月	→勝光寺俊木掛 小沢七兵衛	包紙	1	
文04	8-6	[目録包紙]	「金千疋」			包紙	1	
文04	8-7	[目録]	「金千疋」			状	1	
文04	8-8-0	[くくり紐]				紐	1	
文04	8-8-1	[断簡]	「未十月天長節被下」			状	1	

組織単位	No.	表題・[内容表題]	「書き出し」(内容)	年代	作成→宛所	形態	数量	備考
文01	8-8-2	覚	(上ヶ物代と下賜品の金銭差引)	閏10月28日	→小澤	状	1	
文01	8-9	[目録]	「金七百疋」(調金骨折により下さる)			状	1	
文01	8-10	御渡方	(扶持分、年2石7ヶ月分、調金方年1石半年分)	午年12月		状	1	包紙入
文01	8-11	[包紙]	「巳十二月御上より式画入被下」			包紙	1	
文01	8-12-1		(扶持分渡状、年3石25の割2ヶ月分)			状	1	
文01	8-12-2		(端裏)「官録被下」・(9、10、11ヶ月分)			状	1	
文01	8-13	のし				状	1	反古紙を利用
文01	8-14	[包紙]	「金三百疋」			包紙	1	
文01	8-15		「五百疋奉 地券手問賃」			状	1	
文01	8-16		「進上 素纏三拾把…」	明治6年9月		状	1	
文01	8-17	御渡方	(玄米代金御渡)		→小沢六左衛門	状	1	包紙あり
文01	8-18		(高反別調御出、年貢上納の儀に付)	明治4年7月	町組、西組、東組、岩藏組地下惣代→里正山(カ)内産三郎(まか4名)	状	1	
文01	9-0	[くくり組]				組	1	
文01	9-1	覚	(多三郎より預り金)	未年2月		状	1	
文01	9-2	覚	(金子御渡)	申年8月11日	扇屋傳兵衛代喜兵衛→小沢七兵衛	状	1	
文01	9-3	[書状]	「甚寒之御御座候得共…」(今日手形を持参させる旨)	12月12日	伴伝兵衛・仁兵衛→小沢七兵衛様	状	1	
文01	9-4	覚	(年賦金・利足金御渡)	子年1月	扇屋伝兵衛→小沢七兵衛様	状	1	(端裏書)「伴伝子正月十八日」
文01	9-5	覚	(申10月～戌年の利金勘定差引)			状	1	

組織単位	No.	表題・[内容表題]	「書き出し」(内容)	年代	作成→宛所	形態	数量	備考
文04	9-6	覚	(江戸日本橋近江屋三右衛門より登せ金ほか御渡)	嘉永4年2月5日	扇屋伝兵衛・喜兵衛→小沢七兵衛様	状	1	
文04	9-7	覚	(内池屋升兵衛よりの金ほか渡し)	10月11日	近江屋三右衛門→釜屋七兵衛様	状	1	古帳面売札12両3分
文04	9-8	[書状]	「以手紙申上候…」(金300両融通願)	10月6日	扇屋三郎兵衛・同嘉兵衛→小沢七兵衛様	状	1	
文04	9-9	覚	(金231両余送金)	未年7月14日	近江屋三右衛門・忠兵衛・勘七→小沢七兵衛様	状	1	
文04	9-10	[書状]	「中元之御祝儀芽出度申納候…」(中元祝儀・登せ金に付)	7月17日	近江屋三右衛門・忠兵衛・勘七→小沢七兵衛様	状	1	
文04	9-11	覚	(登せ金通知)	未年6月16日	近江屋三右衛門・忠兵衛→小沢七兵衛	状	1	
文04	9-12	借用金子之事	(金500両借用)	文久3年12月5日	八幡町 扇屋伝兵衛他支配人1名→小沢七兵衛	状	1	封紙入
文04	9-13	[書状]	「寒冷之脚御座候…」(借用金返済延期願)	10月15日		状	1	
文04	9-14	借用金証文之事	(諸国神拝の途中金難渋につき借金証文)	嘉永1年5月28日	野州市樺村 永山弥四郎→大藤原村小沢七兵衛	状	1	
文04	9-15	覚	(若宮頼母子掛銀受取)	申年2月25日	金剛寺飛脚屋 市兵衛→篠原 小沢七兵衛	状	1	
文04	9-16	覚	「以便札得貴意得候…」(茂木店よりの届金受取)	申年2月22日	幸兵衛→小沢七兵衛	状	1	
文04	9-17	[書状]	(借用金200両返済する旨)	6月1日	竹村猪兵衛→小沢七兵衛	状	1	
文04	9-18	[書状]	「以便札得貴意候…」(丸印願い、2本証文入)	7月4日	竹村猪兵衛→小沢七兵衛	状	1	
文04	9-19	[書状]	「鏡村迄出役被仰付…」(宮様御通興滞りなくすみ恐悅お見舞)	11月2日	竹村猪兵衛→小沢七兵衛	状	1	
文04	9-20	[書状]	「乍恐一筆啓上仕候…」(250俵落札に付干賀屋藤左衛門参る件)	12月24日	間庄→小沢七兵衛	状	1	
文04	9-21	覚	(引当御拜借之儀御預申上)	11月26日	干かや帯左衛門→小沢様	状	1	
文04	9-22	[書状]	(喜兵衛へ路用銀貸し遣し下さるべく)	12月28日	九之里村二而村田金介事佐々木金一→篠原村小沢七兵衛	状	1	

組織単位	No.	表題・[内容表題]	「書き出し」・(内容)	年代	作成→宛所	形態	数量	備考
文04	9-23	[書状]	(金子返済御日のへ願)	12月晦日	トノ村 万屋吉兵衛→大藤原 小澤御氏	状	1	封筒あり
文04	9-24	[書状]	(土蔵普請のため金子拝借致し、お礼)	5月16日	豊嶋屋元右衛門ほか4人→小澤七兵衛	状	1	封紙あり
文04	9-25	[書状]	(道具屋藤六徳なる商人に付ご心配なく)	7月3日	(野州)遠藤次郎右衛門→小沢七兵衛	状	1	封筒あり
文04	9-26	覚	(金150両借用)	万延1年5月1日	総屋半右衛門→小澤七兵衛	状	1	
文04	9-27	覚	(金150両借用)	万延1年6月	加勢屋半右衛門→小澤七兵衛	状	1	
文04	9-28	覚	(金2朱150文預り)	申年5月1日	小澤七兵衛→かせや半右衛門	状	1	
文04	9-29	覚	(金150両御用達)	万延1年6月1日	→二保かせや半右衛門	状	1	
文04	9-30	覚	(200両借用)	万延1年4月17日	総屋半右衛門→小澤七兵衛	状	1	
文04	10	村勘定平々面割改帳		天保14年～嘉永6年	小澤正美	横	1	
文00	0	小作証文	(字老里塚・赤根田・出口ほか田地に付)	明治7年10月1日	当村三拾壹番屋敷番古蔵ほか→小沢七兵衛殿	綴	1	罫紙使用、11通を綴る
文1	0	[行李]				行李	1	ダンボールのふた付
文1	1	除地之内小山之前井よきとき田畑名前帳	(八冊之内)	安政2年8月	来宝寺	縦	1	
文1	2	[断簡]	【〇佐竹】			横	1	
文1	3	[断簡]	【〇石五郎】			横	1	
文1	4		【千鶴万亀】・(金銀出納簿)	明治21年4月～		横	1	
文1	5	[断簡]	【立替口】			横	1	
文1	6	年中勘定帳		明治5年		横	1	
文1	7	黒羽元河岸店卸帳五番		天保10年	小沢七兵衛	横	1	
文1	8	大針田畑名寄帳	(八冊之内)	安政2年8月	来宝寺	縦	1	
文1	9-1	皆済日録	【納藤原村御年貢米之事】・(淨勝寺)	弘化2巴年9月		状	1	打紙

組織単位	No.	表題〔内容表題〕	「書き出し」(内容)	年代	作成→宛所	形態	数量	備考
文1	9-2	皆済日録	「納篠原村御年貢米之事」・(浄勝寺)	弘化3年9月		状	1	折紙
文1	9-3	皆済日録	「納篠原村御年貢米之事」・(浄勝寺)	弘化4年9月		状	1	折紙
文1	9-4	皆済日録	「納篠原村御年貢米之事」・(浄勝寺)	嘉永1年9月		状	1	折紙
文1	9-5	皆済日録	「納篠原村御年貢米之事」・(浄勝寺)	嘉永2年9月		状	1	折紙
文1	9-6	皆済日録	「納篠原村御年貢米之事」・(浄勝寺)	嘉永3年9月		状	1	折紙
文1	9-7	皆済日録	「納篠原村御年貢米之事」・(浄勝寺)	嘉永4年9月		状	1	折紙
文1	9-8	皆済日録	「納篠原村御年貢米之事」・(浄勝寺)	嘉永5年9月		状	1	折紙
文1	9-9	皆済日録	「納篠原村御年貢米之事」・(浄勝寺)	嘉永6年9月		状	1	折紙
文1	9-10	皆済日録	「納篠原村御年貢米之事」・(浄勝寺)	嘉永7年9月		状	1	折紙
文1	9-11	預り金之覚	「一、金貳両弍朱 預り」・(預り証文)	卯年9月	助次郎カ	状	1	折紙
文1	9-12	覚	「申年迄金三両弍朱預り」・(預り証文)	卯9月26日	助次郎→御住寺様・御身内様・八十八様	状	1	折紙
文1	9-13		「納篠原村御年貢米之事」・(浄勝寺)	安政2年9月		状	1	折紙
文1	9-14		「納篠原村御年貢米之事」・(浄勝寺)	安政3年9月		状	1	折紙
文1	9-15		「納篠原村御年貢米之事」・(浄勝寺)	安政4年9月		状	1	折紙
文1	10-1		「安二本社忠愛ノ主旨ヲ協賛シ…」・(感謝状)	明治28年1月26日	日本赤十字社総裁 大勲位彰仁親王・日本赤十字社子爵佐野常民→小澤七兵衛	状	1	

組織単位	No.	表題〔内容表題〕	「書き出し」(内容)	年代	作成→宛所	形態	数量	備考
文1	10-2		「明治三十七八年事件の功二依り」・(感謝状)	明治39年4月1日	賞勲局総裁従二位 勲一等子爵大給恒	状	1	虫損
文1	10-3		「明治三十七八年戦後ノ際…」・(感謝状)	明治38年3月15日	滋賀県知事正五位勲四等 鈴木定直→小澤七兵衛	状	1	
文1	10-4		「本社忠愛ノ主旨ヲ協賛シ…」・(感謝状)	明治28年1月26日	日本赤十字社総裁 大勲位彰仁親王・日本赤十字社子爵佐野常民→小澤七兵衛	状	1	
文1	10-5		「一金三圓右ハ本會ノ旨趣ヲ…」	明治36年5月9日	大日本武徳會滋賀支部長 鈴木定直→小澤七兵衛	状	1	
文1	10-6		「夙ニ本社ノ主旨ヲ翼賛シ…」・(感謝状)	明治35年12月26日	日本赤十字社滋賀支部長 鈴木定直→小澤七兵衛	状	1	
文1	10-7		「恤兵報告ノ大旨ニ基キ…」・(贈品贈呈状)	明治35年12月23日	日本赤十字社滋賀支部野洲郡委員長 磯部信剛→小澤七兵衛	状	1	
文1	10-8		「其郡義王村義王尋常高等小學校」・(寄付感謝状)	明治27年4月18日	滋賀県知事 大越亨→滋賀県野洲郡篠原村 小澤七兵衛	状	1	
文1	10-9		「守山警察書建築費トシテ…」・(寄付感謝状)	明治22年7月10日	滋賀県知事 中井弘→小澤七兵衛	状	1	
文1	10-10	謝状	「一金五圓 右以篤志寄贈…」	明治22年5月8日	滋賀県勸業協會会頭 中井弘→小澤七兵衛	状	1	
文1	10-11		「本県庁舎建築ニ付…」	明治21年9月15日	滋賀県知事 中井弘→小澤七兵衛	状	1	
文1	10-12		「明治廿年秋季日野川支流光善寺川…」・(寄付感謝状)	明治21年8月10日	滋賀県知事 中井弘→小澤七兵衛	状	1	
文1	10-13		「其郡貧民救助トシテ…」・(寄付感謝状)	明治25年11月20日	滋賀県知事 大越亨→小澤七兵衛	状	1	
文1	10-14		「謹啓時下向暑之脚益…」・(感謝状)	明治35年5月	京釜鉄道株式会社→小澤七兵衛	状	1	
文1	10-15		「拜啓時下 嚴寒々御座候…」・(本社株式募集に付)	明治35年2月1日	京釜鉄道株式会社→小澤七兵衛	状	1	
文1	10-16		「本県庁舎建築ニ付…」・(木杯下賜)	明治21年6月24日	滋賀県知事 中井弘→小澤七兵衛	状	1	

組織単位	No.	表題・[内容表題]	「書き出し」(内容)	年代	作成→宛所	形態	数量	備考
文1	10-17		「帝国義勇艦隊建設二関シ…」(七等功勞章贈与)	明治40年12月25日	帝国海軍協會総裁 大勲位威仁親王→小澤七兵衛	状	1	
文1	10-18		「日野川支流光善寺川堤防敷地トシテ…」(田寄付感謝状)	明治34年6月25日	滋賀県知事 河島醇→小澤七兵衛	状	1	
文1	10-19		「本會ノ趣旨ヲ翼賛シ…」(感謝木杯贈呈)	明治33年11月5日	弉魂會長男爵 小川又次→小澤七兵衛	状	1	
文1	10-20	費第二九〇七号	「本會ノ趣旨ヲ翼賛シ金五圓…」(正会員二列又)	明治33年10月27日	弉魂會長男爵 小川又次→小澤七兵衛	状	1	
文1	10-21		「夙ニ報告恤兵ノ主旨ヲ…」(感謝状)	明治32年12月20日	日本赤十字社滋賀支部長 河島醇→小澤七兵衛	状	1	
文1	10-22	[白紙]				状	1	
文1	10-23		「爰ニ本社忠愛ノ主旨ヲ…」(感謝状)	明治31年12月20日	日本赤十字社総裁大勲位 彰仁親王・日本赤十字社長 佐野常民→正社員 小沢七兵衛	状	1	
文1	10-24	謝状	「貴下ハ豊太閤墳墓修理…」(寄付感謝状、第七等章贈)	明治31年4月15日	豊国会會長侯爵 黒田長成→小澤七兵衛	状	1	
文1	10-25		「貴下ハ豊太閤墳墓修築及…」(感謝状)	明治31年3月25日	豊国会會長侯爵 黒田長成→小澤七兵衛	状	1	
文1	10-26		「其村大字小堤溜池改修并養水路…」(寄付感謝、木杯下賜)	明治30年10月5日	滋賀県知事 折田平内→小澤七兵衛	状	1	
文1	10-27		「明治二十八年県下水害救助金トシテ…」(寄付感謝、木杯下賜)	明治30年9月6日	滋賀県知事 折田平内→小澤七兵衛	状	1	
文1	10-28	[白紙]				状	1	
文1	10-29		「社則第五条三項ニ…」(社員トシテ認定)	明治28年7月4日	日本赤十字社長 佐野常民→小澤七兵衛	状	1	
文1	10-30		「桓武天皇平安遷都千百年記念祭…」(第七種記念白銅牌贈)	明治27年10月1日	平安遷都千百年記念祭協賛會総裁大勲位 織仁親王・同会長 近衛篤磨→小澤七兵衛	状	1	
文1	10-31	褒賞授与證	「菜種二等褒賞」	明治17年7月3日	大日本農会滋賀支会幹事長 籠手田安定→小澤七兵衛	状	1	

組織単位	No.	表題・[内容表題]	「書き出し」(内容)	年代	作成→宛所	形態	数量	備考
文1	11	地下方万金銭出入帳		明治5年カ	小澤重藏	横	1	
文1	12	御領中御中勘定帳		安政6年	小沢正美	横半	1	
文1	13-1	小番帳		安政5年1月	肝煎 東組 重藏・正治郎	横	1	
文1	13-2	寺山人足帳		安政5年1月	肝煎 東組 重兵衛・正治郎	横	1	(表紙のみ記載)
文1	14	地下頼母子帳		嘉永5年12月3日	小沢七兵衛	横	1	
文1	15	柏千鶴勘定帳		文化12年	釜屋	横	1	表紙のみ
文1	16	大福帳		安政7年1月	小沢七兵衛	横	1	
文1	17	勘定手尻帳		嘉永5年4月	小沢六左衛門・支配人権十郎	横	1	主上差引帳と売上帳合綴
文1	18	御中勘定帳		安政2年	小沢七兵衛	横半	1	
文1	19	御領中御中勘定帳		安政3年10月	御勝手方小沢七兵衛	横半	1	
文1	20	覚	(白半切、青半切他人用帳)			横	1	
文1	21-1	御領中御識中		安政5年6月4日	東組	横	1	
文1	21-2	巳年大算用帳		安政5年2月21日	東組	横	1	
文1	22	勘定并買物通		嘉永4年	粹屋 与治右衛門→小澤七兵衛	横半	1	
文1	23		(田畑反別書上)		南喜代松カ	横	1	
文1	24	平尾田畑名寄帳		安政2年8月	桑実寺	横	1	
文1	25	江頭田畑名寄帳		安政2年8月	桑実寺	横	1	
文1	26	南北北方笠谷田畑名寄帳		安政2年8月	桑実寺	横	1	
文1	27		(田畑反別書上)			横	1	
文1	28		(田畑反別書上)			横	1	
文1	29		(田畑反別書上)			横	1	
文1	30	[絵図]	「溜池堤」・「江頭」・「二印」			横	1	
文1	31	[絵図]	「平尾」・「リ印」			横	1	
文1	32	[絵図]	「奥場坪」・「才印」			横	1	

組織単位	No.	表題・[内容表題]	「書き出し」・(内容)	年代	作成→宛所	形態	数量	備考
文1	33	[絵図]	「大針」・「屋敷」・「道筋」			葉	1	
文1	34	[絵図]	「北山屋敷地」・「石寺道」			葉	1	
文1	35	[絵図]	「谷川石橋腰越山道」			葉	1	
文1	36	[絵図]	「笠ヶ谷」			葉	1	
文1	37	[絵図]	「中道 石橋西」・「江頭」			葉	1	
文1	38-0	[包紙]	「石ずり」			包紙	1	
文1	38-1	[収支記載用罫紙]	「月日」			状	1	水墨画の裏紙カ
文1	38-2-1	舞殿再建費来簿第 號		明治32年3月	多賀神社宮司正六位国部謙他3名	葉	1	活版
文1	38-2-2	多賀神社舞殿五十 分一ノ図				葉	1	活版
文1	38-3	世界歴史譚等二十 七編奥蘭混將軍				葉	1	活版
文1	38-4	[書]	「詩情」		玄々居士	葉	1	木版画、木の表紙、 「小沢憲治郎」の署名 の印
文1	38-5	[絵図]		明治35年3月15日	大阪森川印刷所大阪朝日新聞	葉	1	「雪舟」の署名「等楊」 の印
文1	38-6	深澤疏水碑[拓本]		明治30年10月	正八位藤本範治	葉	1	
文1	38-7	免許角力	「地方預取中」・「地方世話人中」	明治35年10月吉日	角力殿元告田昇栄堂勸進元荒川勇峯太郎	葉	1	
文1	38-8	天保義民碑[拓本]		明治28年春3月	正四位殿三等藤本修	葉	1	
文1	39	新講帳		弘化2乙巳年11月3 日	東組	横	1	
文1	40	小遣帳		安政7庚申年1月吉 日	小沢七兵衛	横	1	「写」の印
文1	41-0	[封筒]旧藩書類頼 母子公債證々類共 之袋				封筒	1	
文1	41-1	旧西大路藩江調達 金證文写書上	「御預金一札之事」	明治7年3月20日	野洲郡第五区大藤原村	葉	1	

組織単位	No.	表題・[内容表題]	「書き出し」(内容)	年代	作成→宛所	形態	数量	備考
文1	41-2-1	旧西大路藩債別冊 式々条仕訳書		明治3庚午年12月	竹村左衛門	竖	1	
文1	41-2-2	御公債証譲渡御願 書		明治7年8月	山田き乃他7名	竖	1	
文1	41-2-3	旧西大路藩新債旧 債御所分書写	(竹村太左衛門差し出しの写 し)	明治7年9月24日	竹村太左衛門	竖	1	小沢七兵衛の署名
文1	41-3	旧西大路藩調達金 御處分書写			小沢	竖	1	
文1	41-4	金主之者ヨリ被差 出候引合書写取		明治5年7月～明治 7年3月		竖	1	
文1	41-5-1	新公債御証書譲渡 又儀二付御願書		明治7年	梅村亦五郎伊兵衛	竖	1	
文1	41-5-2	公債譲渡之儀二付 御願書		明治7年9月22日		竖	1	
文1	41-5-3		「旧西大路藩債新第一号……」	明治6年10月	竹村秀補	竖	1	
文1	41-5-4	旧西大路藩債請金 二ヶ条仕訳書		明治5壬申7月	竹村太歳門他九名	竖	1	
文1	41-6	旧西大路藩債新債 旧債御所分書写	(徳井太郎左衛門差し出しの 写し)	明治7年3月25日	小澤七兵衛	竖	1	
文1	41-7	旧西大路藩債新債 旧債御所分書写		明治7年9月24日	竹村左衛門外九人	竖	1	
文1	42	店御帳		弘化3～4年		横	1	
文1	43	町組東組納米庭帳		明治14年11月	戸長役場	横	1	フセソ有
文1	44	初会小沢持三十四 番地下持三十八番 掛金集帳		安政5年3月12日	東組	横	1	
文1	45	地稅納米売拂帳		明治6年	大篠原村戸長役場	横	1	
文1	46-0	〔くくり組〕				組	1	
文1	46-1	以御書付御省略被 仰出候事		(瑞裏)安政3年		状	1	虫損甚し。

組織単位	No.	表題・[内容表題]	「書き出し」(内容)	年代	作成→宛所	形態	数量	備考
文1	46-2	以御書付被仰出候御趣意簡條	「一此度御勝向追々御省略二付」(請書提出及び取締簡条の写)	嘉永6癸丑5月	村庄屋役人、取締方宛	状	1	
文1	46-3	乍恐御請書奉御差上候	(御公儀様挨拶取締等の請書)	安政3辰1月	篠原村庄屋2名、年寄3名、村惣代1名、取締一名→御奉行様	縦	1	
文1	46-4	以御書付を被仰出候御趣意簡條	「一此度御勝手向追々御省略二付」(請書提出及び取締簡条の写)	嘉永6癸丑5月	村庄屋役人、取締宛	状	1	
文1	47	小日記	(本勘定帳の下書)	安政6丁2月	小沢七兵衛	横	1	
文1	48	付完米其他調査		明治25年		横	1	
文1	49	黒羽下河岸一件入用帳		弘化2年		横	1	
文1	50	下野国黒羽町下川岸三森本之助年割 済入金帳、同千本 小太郎様御扶持米 帳		(天保・嘉永)		横	1	
文1	51	五ヶ年調帳		嘉永3～7年	西地下	横	1	
文1	52		「完渡候御触書之写」(梵鐘御触書)			縦	1	
文1	53	出作田島名寄帳		安政2年8月	桑実寺	縦	1	
文1	54-0	[封筒]	「旧藩書類頼母子公債証之類共之袋」			封筒	1	
文1	54-1	公債証券并現金賦金等御下渡二付		明治7年7月17日	小沢七兵衛他5名	横半	1	
文1	54-2	竹村忠雄君竹村隼雄君秩稔御買入調書		明治8年5月26日		横	1	
文1	54-3		「旧債 一金三千百八十五円」			横	1	

組織単位	No.	表題・[内容表題]	「書き出し」(内容)	年代	作成→宛所	形態	数量	備考
文1	54-4	旧藩債御下段之儀 二付委任状		明治7年7月19日	野洲郡第5区大篠原村山田成乃他18名→小沢七兵衛	竖	1	
文1	54-5-1	新公債証券番号記				竖	1	
文1	54-5-2	旧西大路藩調達金 二付御答書		明治5年7月	近江国蒲生郡第24区辨物師村竹村大藏門他9名→大藏省御出張所	竖	1	
文1	54-6	旧西大路藩調達金				竖	1	
文1	54-7	約定証	(公債譲代金受取に付)		→滋賀県第5区上小唐崎町武田静二殿	竖	1	雛形
文1	54-8	西大路藩債調帳		明治5年3月	調金方	竖	1	
文1	54-9		(公債約定証他)			縦	1	
文1	54-9-1	約定証	「一 新公債」(公債譲渡二付)			状	1	
文1	54-9-2	約定証	「一 新公債」(公債譲渡二付)			状	1	
文1	54-9-3	約定証	「三ツ井 一 旧公債…」(公債譲渡二付)			状	1	
文1	54-9-4		「一 旧公債証書高…」(公債金高、枚数書上)			状	1	
文1	54-9-5	公債御証書譲り渡 御願書				状	1	
文1	54-10		(公債関係綴)			綴	1	
文1	54-10-1	公債御証書譲り渡 御願書		明治8年	蒲生郡第十六区西大路村百式十六番屋敷徳井太郎三郎	状	1	
文1	54-10-2	旧公債御証書譲り 渡之儀二付御願書		明治8年	蒲生郡第十六区西大路村百式十六番屋敷徳井太郎三郎	状	3	冊分?本人印あり (西大路戸長)
文1	54-10-3	証	「新債 一 廿五円証書」(公債証書枚数書上)			状	1	
文1	54-10-4	控	「一 新債七百貳拾五円」		京都府下上京第三拾区油屋町五百九拾貳番地平井忠兵衛	状	1	
文1	54-10-5	御公債譲渡御願書	(蒲生郡第拾区桑実寺村外郷 中所持分)			状	1	

組織単位	No.	表題・[内容表題]	「書き出し」(内容)	年代	作成→宛所	形態	数量	備考
文1	54-10-6	公債御証書譲り渡御願書	「一 新公債御証書人数」			状	1	
文1	54-10-7	御公債譲渡御願書	(蒲生郡第拾区桑実寺村外郷中所持分)			状	1	
文1	54-10-8	公債証譲渡之儀二付御願書			蒲生郡第拾区桑実寺村	状	1	冊表紙カ
文1	54-10-9	公債御証書譲り渡御願書		明治8年4月	蒲生郡第十六区西大路村百式十六番屋敷徳井太郎三郎	状	1	
文1	54-11	旧西大路藩調達金御所文書之写		7月25日	橋本五郎兵衛→小沢七兵衛	竖	1	
文1	54-12	御公債証譲渡二付御願書		明治7年8月29日	野洲郡第五区高木村橋本五郎兵衛→滋賀県令松田道之	竖	1	
文1	54-13	旧西大路藩調達金証書写十九通 請取通写二冊		明治7年3月23日	蒲生郡第十四区鉾物師村竹村太左衛門外九人→滋賀県令松田道之	竖	1	
文1	55	黒羽下川岸掛合入用帳		弘化2年1月		横	1	
文1	56-1	観音堂勘定帳		嘉永2年7月11日	立会世話人中	横	1	
文1	56-2	淨堂屋根替帳		嘉永2年3月	檀中	横	1	
文1	56-3	三七家譜購入用帳		嘉永2年2月6日	世話・小沢七兵衛	横	1	
文1	57	奥底田島名寄帳		安政2年8月	桑実寺	竖	1	
文1	58	本勘定帳		万延1年12月	篠原村→御勝手方	竖	1	
文1	59	再勘定帳		寛永4年12月6日	西本郷村庄屋新平→御勝手中・御勘定所	竖	1	
文1	60	勘定手尻帳		嘉永6年11月8日～ 嘉永7年5月8日	小沢六左衛門	横	1	主人差引帳と合綴
文1	61	乍恐以書付奉願上候	(貸付金内済に付願書)	天保4年7月	釜屋→御役所	状	1	切断
文1	62	村々連印米永引当借用証文			野州茂木檢断 小堀七郎兵衛→小沢七兵衛	竖	1	

組織単位	No.	表題・[内容表題]	「書き出し」(内容)	年代	作成→宛所	形態	数量	備考
文1	63	文化七庚午正月	「文化七庚午正月」(大福帳カ)	文化7年1月		横	1	
文1	64	黒羽元河岸店御帳		天保8年	小沢七兵衛 代 覚右衛門	横	1	
文1	65	道米帳		安政5年12月26日	東地下	横	1	
文1	66	黒羽下河岸一件願書之扣	(河岸株家賃滞一件始末書写)	天保2年8月	小澤七兵衛 百姓代 仙右衛門	竖	1	
文1	67		(東組関係諸帳簿綴)			—	—	文1-67-1~6合綴
文1	67-1	覚	「七月廿日一、三百三拾文」	安政2年10月	蚊帳屋佐兵衛→仁正寺謙御勝手方様	横	1	
文1	67-2	覚	「 <input type="checkbox"/> 七百九十四文」		小沢七兵衛	状	1	
文1	67-3	覚	「 <input type="checkbox"/> 貳石八千文」	子年12月	庄や伊兵衛	状	1	
文1	67-4	仁正寺縁之御入用覚		7月18日	加屋佐兵衛→仁正寺縁御勝手方御役人衆中様	横	1	
文1	67-5	仁正寺縁之御入用覚		子年12月14日	蚊帳屋佐兵衛	横	1	
文1	67-6	買之下残り				横	1	
文1	68-1	御年貢米名寄帳		嘉永3年11月25日	東組	横	1	
文1	68-2		「藤五郎 一 入町上づかい…」(村役人足帳)			横	1	
文1	68-3	小遣帳		弘化5年11月11日	東組地下	横	1	
文1	68-4		「傳馬金…高木講…」(講金取立)	嘉永1年6月1日	東組	横	1	
文1	68-5		「拾壹会目人別講…」(講金取立)	弘化5年3月4日	東組	横	1	
文1	68-6		「傳馬金…高木講…」(講金取立)	嘉永1年10月22日		横	1	
文1	68-7		「拾式会目人別講」(講金取立)	嘉永1年9月7日	東組	横	1	
文1	68-8	道米差引帳		嘉永1年12月23日		横	1	
文1	68-9	歩銀代賃集帳		嘉永1年12月24日	東組	横	1	
文1	69	大福帳		安政5戊午年1月11日	小沢七兵衛	横	1	

組織単位	No.	表題・[内容表題]	「書き出し」(内容)	年代	作成→宛所	形態	数量	備考
文1	70	[綴]				綴	1	
文1	70-1	覚	「式間七メ 式拾弍丁…」(材木の送りリストカ)	辰12月25日	→小沢七兵衛	状	1	文1-70-1～7まで綴
文1	70-2	送り	「丈窓四寸二七寸 九丁…」(材木の寸法)	4月4日	大篠原村仲間→小沢七兵衛	状	1	折紙
文1	70-3		「四寸三分…」(材木の寸法書付)			折紙	1	
文1	70-4		「松、二人枚…」(材木の計算)			状	1	
文1	70-5		「地回長サ二丈五尺…」(材木の見積り書)		大工市兵衛	折紙	1	
文1	70-6	覚	(材木見積書)	11月29日	小沢→弥次兵衛	状	1	
文1	70-7	覚	「レンダイ四寸九寸……」			状	1	
文1	71		「東地下上正寺かつち」小沢通ニテ御差引可下候」			状	1	
文1	72	村方勘定帳下書写			吉村製(小沢七兵衛蔵書)	豎	1	
文1	73	伐木買渡申証文之故		明治2年10月	篠原村買主忠七(印) 他2名→御役人中様	状	1	
文1	74	借家証文之事	(河岸宿間屋株・家財等)	天保4年4日	借屋人浦屋源兵右衛門他4人→茂木町釜屋七兵衛	状	1	
文1	75-1	御年貢名寄帳		嘉永6年11月22日	東組	横	1	
文1	75-2	弍拾弍会目人別講子年大算用割		嘉永6年3月4日	東組	横	1	
文1	75-3	佐々木様御見舞守山講高木講		嘉永6年4月3日	東組	横	1	
文1	75-4	二十二会目人別講御領中講高木講五月受立		嘉永6年8月29日	東組	横	1	
文1	75-5	四会目御領中御講受取帳		嘉永6年11月1日	東組	横	1	
文1	75-6	夫銀大貫守山		嘉永6年12月23日	東組	横	1	

組織単位	No.	表題・[内容表題]	「書き出し」(内容)	年代	作成→宛所	形態	数量	備考
文1	75-7	道米帳		嘉永6年12月25日	東組	横	1	
文1	75-8	小番帳		嘉永6年1月	東組	横	1	
文1	76	頼母子金子受取□		嘉永1年12月5日		横	1	□は虫食い、下部失
文1	77	月割受拂帳		文化5年6月		横	1	
文1	78	観音堂寄進帳		嘉永2年10月	世話方	竖	1	
文1	79	本勘帳		嘉永4年12月	妙光寺村	竖	1	
文1	80		「第四百四拾三番字志里塚…」 (地番別反別当書上)			竖	1	
文1	81		「西組 六人 弥三郎」(干魃 見分額付等)			状	2	横断断簡
文1	82		西組岩藏組納米庭 帳	明治16年	戸長役場	状	1	横断断簡
文1	83		「一 廿五錢 五之里 浅七」 (金銭并人名書上)			状	1	
文1	84		「一 百四拾七匁分引出し …」(品代書上)			状	1	
文1	85	村方観定帳并大番 水入定書有		文政12年6月	小沢七兵衛	竖	1	
文1	86	小日記	(寺社人足書上)	安政6年12月	小沢七兵衛	横	1	
文1	87		「一 村高四百參拾八石式斗 三升式合」(村内取調書)			竖	1	
文1	88		(田畑申上綴)			綴	1	
文1	88-1		「一 山反別四畝七歩」(田畑 書上)			竖	1	
文1	88-2		「一 反別七歩」(田畑書上)			竖	1	
文1	89		「一 畑壹畝十八歩」(田畑書 上)			状	1	竖断断簡
文1	90		「○前川仁藏…」(米納に付書 上)			横	1	

組織単位	No.	表題・[内容表題]	「書き出し」(内容)	年代	作成→宛所	形態	数量	備考
文1	91	三百号	(布達書「管下人民出廳之節…」(公宿会社取口之儀に付)	明治5年11月5日	滋賀懸令松田道之	縦	1	
文1	92	(布達書綴)				綴	1	92-1~92-4は綴り。
文1	92-1	二百三十六号	(布達書)(行政区画改に付)	明治8年3月		縦	1	
文1	92-2	甲第百九十一号	(布達書)(東京師範学校へ中 学師範学科相設に付)	明治8年8月13日	滋賀県権令籠手田安定	縦	1	
文1	92-3	甲第百九十三号	「別紙ノ通公布相成候條…」	明治8年8月23日	滋賀県権令籠手田安定	縦	1	
文1	92-4	甲第百九十五号	(文部省よりの布達に付)	明治8年8月23日		縦	1	
文1	93	覚	(店おろし状綴)	未~弘化3千年	小沢正美	横	1	
文1	94		「千祥万植…」(金銭出納簿)	(近代)		横	1	
文1	95		「軒好趣意書…」(風説留カ)			縦	1	
文1	96	甲第三百五十七号	(海陸軍刑律改正に付通達)	明治8年12月19日	滋賀県権令籠手田安定代理滋賀県権参事酒井明	縦	1	
文1	97	市橋下総守様御家中附		嘉永2年5月	小沢蕭鳳蔵書	横半	1	
文1	98	町組東組納米庭帳		明治11年11月3日 ~	大篠原村戸長役場	横	1	
文1	99	掛銀受取帳		嘉永3年11月28日	講元東組→小澤七兵衛	横	1	
文1	100-1	本勘定帳		安政6年12月	篠原村	縦	1	
文1	100-2	本勘帳		安政6年12月	安養寺村	縦	1	
文1	100-3	本勘帳		安政6年12月	高木村	縦	1	
文1	100-4	本勘帳		安政6年12月	妙高寺村	縦	1	
文1	101		「式分廿四文 樽…」(品代等書上)			状	2	
文1	102	太政官日誌 第七十		慶応4年8月	御用御書物所東洞院上ル町村上勘兵衛ほか	縦	1	
文1	103	甲第三百五拾八号	(第1国立銀行紙幣二付 大蔵省よりの布達通知)	明治8年12月19日	滋賀県権令籠手田安定代理滋賀県権参事酒井明	綴	1	
文1	104-0	[包紙]	[証文]			包紙	1	

組織単位	No.	表題・[内容表題]	「書き出し」(内容)	年代	作成→宛所	形態	数量	備考
文1	104-1	差入申証文事	「右者江戸御用油御手続…」	弘化3丙午10月	四ッ目屋末七 他二人→小澤七兵衛 他三人	状	1	片岡良輔奥印
文1	104-2	差入申証文事	「一金四両壹分式朱…」	弘化3丙午10月	大和屋儀兵衛→小澤七兵衛 他三人	状	1	
文1	105-0	[包紙]	「一 証文」			包紙	1	
文1	105-1	差入申証文事	「一金九両也、右者今般從御上様御下々金…」	嘉永3庚戌7月	林村借用人亀三郎他五人→小澤七兵衛	状	1	旗方高木勘右衛門奥印
文1	105-2	差入申証文事	「一金六両也 右者今般從御上様御下々金…」	嘉永3庚戌7月	林村借用人五郎兵衛他五人→小澤七兵衛	状	1	旗方高木勘右衛門奥印
文1	106	勘定手取帳		嘉永3庚戌	小澤正美	横	1	亥正月改
文1	107	東池さらい入用帳		安政4丁巳年12月	小澤正美	縦	1	
文1	108	江州野洲郡篠原村宗旨御改五人組調印帳		嘉永3年3月7日		横	1	
文1	109	御高帳		弘化2年3月	東組	縦	1	
文1	110-1	諸用口	(金錢人名書上)(※人名:上川岸、丁内若衆、黒羽字中、茂木…)			横	1	110-2まで綴
文1	110-2	子仕切賃	(金錢人名書上)(※人名:千住、黒羽、島山、茂木)			状	1	
文1	111	仁正寺様御入用之覚		12月17日	蚊帳屋作兵衛(江州八幡)→仁正寺様御勝手方御役人 衆中様	状	1	
文1	112-1		「一四斗八升 内一升二合 福永…」(石高人名書上)			横	1	112-2まで綴
文1	112-2		「過分 一七斗九合…」(石高人名書上)			横	1	
文1	112-3		「一 壹斗三升壹合式勺…」(石高人名書上)			横	1	
文1	113	[絵図]	(芦浦関係カ)			葉	1	断簡
文1	114	[布達綴]		明治10年3月		綴	1	
文1	115	第七十号	(諸品売買取引心得方之義二付)	(明治4年)辛未5月	滋賀県庁	綴	1	

組織単位	No.	表題・[内容表題]	「書き出し」・(内容)	年代	作成→宛所	形態	数量	備考
文1	116	第七十五号	(電信線通信始に付)	(明治5年)壬申4月17日	工部省・滋賀県庁	縦	1	
文1	117	御上様上切金請求書写		安永10年～天保7年		竖	1	
文1	118		「竹村大左衛門…」(人名・公債額書上)			横	1	
文1	119	積銀講割渡下帳		明治6年3月14日		横	1	
文1	120	公債旧管下村々割渡帳		明治7年8月1日	下側	横	1	
文1	121	付買米金精査簿		明治23年10月	主擔小沢七兵衛	横	1	
文1	122	嘉永二酉年十二月分勘定帳		嘉永3年1月4日	江頭加七屋与次右衛門→志の原小沢七兵衛	横半	1	
文1	123	売もの通		弘化3年秋～弘化年7月迄	江頭純屋与次右衛門→小沢七兵衛	横半	1	
文1	124-0	〔くくりひも〕				紐	1	
文1	124-1-1		「合テ 八百八十石壹斗五…」(米計算書)			状	1	
文1	124-1-2		「亥二月…」(米人員書上17)			状	1	
文1	124-2-0	〔くくりひも〕				紐	1	
文1	124-2-1		「六月十八日…」(日記)	～7月17日		襷	1	
文1	124-2-2	河内国星田村出役覚				状	1	
文1	124-2-3-1	[付箋]	「百三十九両…」			状	1	
文1	124-2-3-2		「惣々 七百九両」			状	1	
文1	124-2-4	河内国星田村出張入用覚				状	1	
文1	124-2-5		「一 四百五十九文…」			状	1	

組織単位	No.	表題・[内容表題]	「書き出し」(内容)	年代	作成→宛所	形態	数量	備考
文1	124-2-6		「一 十式文 茶代」(入用金書上)			状	1	
文1	124-2-7	日勤覚	「一、(虫損)巻入…」			状	1	
文1	124-3-0	【くくり組】				紐	1	
文1	124-3-1	十二月三日 九札目 御拂米				状	1	
文1	124-3-2	十一月二十三日 八札目 御拂				状	1	
文1	124-3-3	十一月十四日 七札目 御拂米				状	1	
文1	124-3-4	十一月三日 六札目 御拂米	「六十石 一志の原…」			状	1	
文1	124-3-5	十月二十三日 五札目 御拂米	「八石 一妙光寺…」			状	1	
文1	124-3-6	十月十四日 四札目 御拂米	「四石 一妙光寺…」			状	1	
文1	124-3-7	十月五日 三札目 御拂米	「八石 一妙光寺…」			状	1	
文1	124-3-8	九月廿四日 二札目 御拂	「八石 一妙光寺…」			状	1	
文1	125	【書状】	「益御機嫌能可被御座…」(茂木店醬油・味噌等経営状況の知らせ)		柴屋二而茂七→小沢七兵衛	状	1	
文1	126-1	御公儀様ヨリ相木地大工御触并家作御触		天保14年11月触	小沢七兵衛字	豎	1	126-2まで一括
文1	126-2	中井様御役所御請書		天保14年11月触 嘉永5年12月8日上ル	小沢七兵衛	豎	1	

組織単位	No.	表題・[内容表題]	「書き出し」(内容)	年代	作成→宛所	形態	数量	備考
文1	127		「今度市橋下總守殿御領分…」 (市橋山亮托二付買取請書等)	安政3年12月	東川村柳買主重兵衛他3人→小沢七兵衛他1人	竖	1	
文1	128	御宗旨御改二付村 方より御証文書上 写		安政2年3月1日	小沢七兵衛	竖	1	
文1	129	除地之内深谷田畠 名寄帳		安政2年8月	乗実寺	竖	1	
文1	130	辰極月廿六日勘定 書	(村入用軒割二付)			横	1	
文1	131	大鳥屋弥四郎借金 覚		享和3年5月12日		横	1	後部に家屋敷家財書 道具改あり
文1	132	店引渡代金扣帳		文政3年2月	常陸屋久次	横	1	上部欠
文1	133	御領中御中勘定		安政	小沢七兵衛正堂	横半	1	表紙に朱書「七」
文1	134	醬油仕入帳		明治18年7月1日		横	1	
文1	135	浄勝寺檀中頼母子 帳		文政6年8月		横	1	
文1	136	金銭出納簿		明治11年6月3日～	戸長役場	横	1	
文1	137	浄勝寺住院諸勘定 覚帳		安永2年12月25日	浄勝寺且中	横	1	
文1	138	掛銀受取帳	(小澤七兵衛覚書)	天保15年12月10日	地下	横	1	
文1	139-0	「くくり紐」				紐	1	
文1	139-1-0	[封紙]	「敦佐 嘆願書…」			封紙	1	くくり紐より cf. 139-10を見よ
文1	139-1-1		「以村継啓上仕候…」(八幡間 屋猪右衛門方御拂米津出し二 付)	子間2月26日(嘉永 5カ)	竹村猪三郎→小沢七兵衛、玉尾藤左衛門	状	1	
文1	139-1-2		「一、拾八俵御拝借之覚…」	亥11月21日		折紙	1	
文1	139-1-3		庄屋伝右衛門長改ル(拾八俵 御拝借二付)			状	1	

組織単位	No.	表題・[内容表題]	「書き出し」(内容)	年代	作成→宛所	形態	数量	備考
文1	139-1-4	覚	【次助 小八…】(御拜借米に付覚書)		→御用方	状	1	
文1	139-1-5	覚	【一、治助志使…】	11月25日		状	1	
文1	139-1-6	上ル下々(写)	(徳京・鏡・江頭など里程図)	冬10月18日	→御奉行	状	1	
文1	139-1-7	乍恐奉御願上候事(写)	(八幡町仲間入札御除に付)		八幡仲間九人	状	1	
文1	139-1-8	口上[書簡]	(仲間方願書に付)	1月19日	玉尾→小沢	状	1	
文1	139-1-9	[書簡]	【前文口 過日は夫々…】	1月28日	竹村猪三郎→小沢七兵衛	状	1	
文1	139-1-10	[書簡]	【以村継啓上仕候…】(八まん仲間ノ事)	西1月12日	竹村猪三郎→小沢七兵衛、玉尾藤左衛門	状	1	
文1	139-1-11	[書簡]	【以村継啓上仕候…】(八幡表より願之一件に付)	2月3日	竹村猪三郎→小沢七兵衛、玉尾藤左衛門	状	1	
文1	139-1-12	[書簡]	【以村継啓上仕候…】(蚊帳佐再願一件に付)	1月19日	竹村猪三郎→小沢七兵衛、玉尾藤左衛門	状	1	
文1	139-1-13	[書簡]	【以村継再度 御尊書…】(八まん蚊佐蔵元御拂米比?所付)	1月20日	小沢七兵衛、玉尾藤左衛門→竹村猪三郎	状	1	
文1	139-1-14	[書簡]	【新春之御慶不可有…】(仁正寺御蔵御拂米二付)	1月11日	小沢七兵衛→菱ヶ屋忠右衛門	状	1	
文1	139-1-15	[書簡]	【年始之御尊書難在…】(仁正寺様御願違之義…)	1月15日	蚊帳屋佐兵衛→小沢七兵衛	状	1	
文1	139-1-16	[書簡]	【昨日者参上致…】(御敬成により御開済に付)	子1月22日	行事 菱屋忠右衛門→小沢七兵衛	状	1	
文1	139-1-17	[書簡]	【去ル廿日御認之貴書…】(蚊帳左仲間再願一件に付)	1月24日	竹村猪三郎→小沢七兵衛	状	1	
文1	139-1-18	[書簡]	【新春之御吉慶不可有依期…】(仁正寺御蔵元御拂場所に付)	1月15日	小沢七兵衛→蚊帳屋佐兵衛	状	1	
文1	139-1-19	乍恐奉御願上候事	(御入札触加入に付)	嘉永5年1月15日	八幡町仲買 米や半兵衛 他8人	状	1	
文1	139-1-20	八まん仲間下書			八幡町仲株仲間一、常葉寺仲間一、江頭村一、仲間→仁一	状	1	

組織単位	No.	表題・[内容表題]	「書き出し」(内容)	年代	作成→宛所	形態	数量	備考
文1	139-1-21	八まん仲間株定	「株元請人同大文字屋彦兵衛…」			状	1	
文1	139-2	覚	「一 老人口林…」(人別口数書上)			状	1	
文1	139-3	調達金勘定覚		明治7年8月7日	森尻村大梁金弥→小沢七兵衛	状	1	
文1	139-4	覚	「一 式両貳分…」	9月24日	→上	状	1	
文1	139-5	覚	「一 金四拾貳円…」(下々金請取二付)	8月7日	玉尾藤平→小沢七兵衛	状	1	
文1	139-6	記	(新田御廻分帳等渡二付)	明治7年5月16日	竹村太左衛門→小沢七兵衛	状	1	
文1	139-7		「百円 一久郷…」(人別金銭書上)			状	1	
文1	139-8-1		「一 式朱四百文…」	9月	→橋木、小沢	状	1	
文1	139-8-2		「一 五両貳分…」	9月	→橋木、小沢	状	1	
文1	139-9	口上覚	(平井忠藏公債証買入二付)	(明治)8年1月20日	堀田与左右衛門→小沢七兵衛	状	1	
文1	139-10	覚	(金銭受取二付)	4月22日	米与→小沢、橋本、安井	状	1	
文1	139-11	覚	「壹両貳朱…」	7月19日	→上	状	1	
文1	139-12	おほえ	「七月廿一日、一、内、六百五十文…」	7月21日	からさきかぎや→上	状	1	
文1	139-13	覚	「一、新公債証…」			状	1	
文1	139-14	証	「一 金百六拾七円…」	明治7年8月7日	久郷東太→小沢七兵衛	状	1	
文1	140-0	〔くくり組〕				紐	1	
文1	140-1	覚	(御納米預り)	明治2年12月	とゐへ(江州江頭間平)→大藤原村 甚右衛門	状	1	
文1	140-2	十二月十一日皆済御払				状	1	
文1	140-3	九月廿七日 二札目御払				状	1	
文1	140-4	十二月二日 九札目御払				状	1	

組織単位	No.	表題・[内容表題]	「書き出し」・(内容)	年代	作成→宛所	形態	数量	備考
文1	140-5	八札目 十一月廿三日御払				状	1	
文1	140-6	七札目	「十一月十四日御拂…」			状	1	
文1	140-7	十月十六日四札目御拂米	「一妙光寺 貳拾俵…」			状	1	
文1	140-8	十一月五日六札目御拂	「一、篠原 百俵…」			状	1	
文1	140-9	十月七日三札目御拂米	「一妙光寺 貳拾俵…」			状	1	
文1	140-10	十月廿五日 五札目 御拂米	「一妙光寺 拾俵…」			状	1	
文1	140-11	九月十八日 初拂	「一妙光寺 拾俵…」			状	1	
文1	141-0	〔くくり組〕				細	1	
文1	141-1	上津米覚				状	1	
文1	141-2		「此度山西村江三拾石上津米御用」(上津米二付…)	11月10日		状	1	
文1	141-3	覚	(米代金覚)		柴や長九郎→志の原小沢六郎	状	1	
文1	141-4	覚	(米俵数覚)	未10月11日	→庄屋 甚右衛門	状	1	
文1	141-5	おほへ	(米俵数覚)	未4月夏	→庄屋 甚右衛門	状	1	
文1	141-6	差上申証文事	(西大路果納税米運送請書)	明治4年9月	何果管轄何部何村運送間屋渡世何其・親類惣代何其・庄屋何其→西大路果納税掛り御役人中	状	1	ひな形
文1	141-7	七札目御払米廻章	(村方租税勘定書上)	未11月19日	潤計方→妙光寺村実正御中	状	1	包紙帖継
文1	141-8	七札目御払米廻章		未11月8日	潤計方→妙光寺 志の原、高木、安養寺 村々	状	1	包紙帖継
文1	141-9-0	六札目御払米廻章	「以廻章得…」	12月25日	潤計方→志の原 村妙光寺村	状	1	包紙帖継
文1	141-9-1	五札目御払米廻章	「以廻章得…」	10月18日・10月□5日	潤計方→志の原 村妙光寺村	状	1	包紙帖継
文1	141-10	四札目御払米廻章	「以廻章得…」	10月8・9日	潤計方→志の原 村妙光寺村・妙光寺村御匡政中	状	1	包紙帖継
文1	141-11-0	三札目御払米廻章 [包紙]			潤計方	包紙	1	141-11-1と貼付

組織単位	No.	表題〔内容表題〕	「書き出し」(内容)	年代	作成→宛所	形態	数量	備考
文1	141-11-1		[以廻札得御意候…]	9月29日	潤計方→篠原村・妙光寺村 右村々御里正中	状	1	
文1	141-12-0	式札目御払米廻章 〔包紙〕			潤計方	包紙	1	141-12-1と貼付
文1	141-12-1		[以廻札得御意候…]	未9月20日	潤計方→篠原村・妙光寺村・高木村・安養寺村御里正中	状	1	
文1	141-13-0	新穀初拂 廻章 〔包紙〕			潤計方	包紙	1	141-13-1と貼付
文1	141-13-1		[以廻札得御意候…]	未9月12日	潤計方→篠原村・妙光寺村・高木村・安養寺村御里正中	状	1	
文1	141-14-0	御開米拂 廻章 〔包紙〕			潤計方	包紙	1	141-14-1と貼付
文1	141-14-1		[以廻札得御意候…]	9月3日	潤計方→しの原村・妙光寺村 御里正中	状	1	
文1	142-0	〔くくろ紐〕				紐	1	
文1	142-1	御請書	御救金之内江上金に付	天保15年1月	篠原村百姓 七兵衛代仁兵衛→御奉行様	状	1	虫損
文1	142-2		[市橋主殿頭領分 江州…] (冥加金十七両上金内願に付)	天保14年8月	市橋主殿頭領分江州野洲郡篠原村 百姓七兵衛→桑田藏兵衛	状	1	
文1	142-3	五街道宿助郷助成 金御請書写		天保14年8月	市橋主殿頭領分江州野洲郡篠原村 百姓七兵衛→桑田藏兵衛	竖	1	
文1	143-0	〔くくろ紐〕				紐	1	
文1	143-1-1	八札目御拂米廻章 〔包紙〕			大潤計方	包紙	1	143-1-1-1と貼付
文1	143-1-1-1		[以廻章得御意候…]	11月18日	大潤計方→篠原村・妙光寺村・高木村・安養寺村々御庄屋中	状	1	
文1	143-1-2-0	九札目御払米廻章 〔包紙〕			大潤計方	包紙	1	143-1-2-1と貼付
文1	143-1-2-1		[以廻章得御意候…]	11月29日	大潤計方→篠原村・安養寺村御庄屋中	状	1	
文1	143-2-0	皆済御払米廻章 〔包紙〕			大潤計方	包紙	1	143-2-1と貼付

組織単位	No.	表題・[内容表題]	「書き出し」(内容)	年代	作成→宛所	形態	数量	備考
文1	143-2-1		[以廻章得御意候…]	午12月10日	大潤計方→篠原村・安養寺村御庄屋中	状	1	
文1	143-3-0	御払米急廻章[包紙]			大潤計方	包紙	1	143-3-1と貼付
文1	143-3-1		[以廻章得御意候…]	(明治3年々)午閏10月23日	潤計方→小房村・外原村・岩井村 右村々御庄屋中	状	1	
文1	143-4-0	御拂米 廻章[包紙]			大潤計方	包紙	1	143-4-1と貼付
文1	143-4-1		[以廻章得御意候…]	9月29日	大潤計方→篠原村・妙光寺村・高木村・安養寺村	状	1	
文1	143-5-0	七札目御拂 廻章[包紙]			大潤計方	包紙	1	143-5-1と貼付
文1	143-5-1		[以廻章得御意候…]	午11月8日	大潤計方→篠原村・妙光寺村 右御庄屋中	状	1	
文1	143-6-0	六札目御拂米 廻章[包紙]			大潤計方	包紙	1	143-6-1と貼付
文1	143-6-1		[以廻札得御意候…]	午閏10月26日	大潤計方→篠原村・妙光寺村・高木村・安養寺村 右村々御庄屋中	状	1	
文1	143-7-0	五札目御拂米 廻章[包紙]			大潤計方	包紙	1	143-7-1と貼付
文1	143-7-1		[以廻章得御意候…]	午閏10月25日	大潤計方→篠原村・妙光寺村・高木村・安養寺村 右村々御庄屋中	状	1	
文1	143-8-0	四札目御拂米 廻章[包紙]			大潤計方	包紙	1	143-8-1と貼付
文1	143-8-1		[以廻章得御意候…]	閏10月4日	大潤計方→妙光寺村・篠原村・高木村・安養寺村 右村々御庄屋中	状	1	
文1	143-9-0	三札目御拂米 廻章[包紙]			大潤計方	包紙	1	143-9-1と貼付
文1	143-9-1		[以廻章得御意候…]	午10月25日	大潤計方→妙光寺村・篠原村・安養寺村 右村々御庄屋中	状	1	
文1	143-10-0	弐札目御拂 廻章[包紙]			大潤計方	包紙	1	143-10-1と貼付
文1	143-10-1		[以廻章得御意候…]	午10月14日	大潤計方→妙光寺村 ほか3村庄屋中	状	1	

組織単位	No.	表題・[内容表題]	「書き出し」(内容)	年代	作成→宛所	形態	数量	備考
文1	143-11-0	御拂米 二札目 廻章[包紙]			大潤計方	包紙	1	143-11-1と貼付
文1	143-11-1		「以廻章得御意候…」	午10月3日	大潤計方→(妙光寺ほか3村)右村々御庄屋中	状	1	
文1	144-0	[<<9組]				組	1	
文1	144-1		「一、篠原 百 十一屋…」(仁正寺藩領年貢金納関係か)			状	1	端裏書あり
文1	144-2	覚	「一 金千五百兩 西大路組…」(仁正寺藩御用金関係か)			状	1	
文1	144-3-0	[包紙]		11月12日	妙光寺村 庄屋源吉→篠原村 小澤六左衛門	包紙	1	144-3-1を包む
文1	144-3-1	[書状]	「一筆啓上仕候…」(過日御膳の御拂米、まず二十俵御拂い下されたく)	11月12日	妙光寺村 庄屋源吉→篠原村 小澤六左衛門	状	1	
文1	144-4	覚	(定免立、拜借金返納、十俵拂過につき)	11月24日	高木村 橋本五郎兵衛→大篠原村 小澤六左衛門	状	1	
文1	144-5	妙光寺再勘定尻	(年貢勘定関係か)			状	1	
文1	144-6	[書状]	「嚴寒之節二御座候處…」(会計一条、下御頭取衆内にて一人立会下されたく)	12月9日	橋本五郎兵衛→小澤六左衛門	状	1	
文1	144-7	[書状]	「以愚札啓上仕候…」(先札御拂の際拾俵拂過分、御用米から融通下さるべく)	11月27日	橋本五郎兵衛→小澤六左衛門	状	1	
文1	144-8	[書状]	「以手紙申上候…」(再勘定につき)	11月晦日	安養寺村当役今惣左衛門→篠原村 小澤六左衛門	状	1	
文1	144-9	[書状]	「一筆啓上仕候…」(東京情勢等につき)	11月12日	下総石下宿竹村権兵衛→久郷藤右衛門、玉尾藤左衛門、小澤六左衛門	状	1	
文1	144-10	御立直段覚	(仁正寺藩領村々のもの)			状	1	後半「上納七ヶ村金納直段」
文1	144-11	御拂米廻章 三札目	「寒冷の期二御座候處…」	10月8日	御蔵掛り役人→右村々御庄屋中様	状	1	

組織単位	No.	表題・[内容表題]	「書き出し」(内容)	年代	作成→宛所	形態	数量	備考
文1	144-12	御拂米廻章 四札目	「以廻章得御意候然者…」	10月17日	御蔵掛り役人→右村々御庄屋中様	状	1	
文1	144-13	廻札 五札目	「以廻札得御意候…」	10月26日	御勝手方→右村々(妙光寺、篠原、高木、安養寺)御庄 (ママ)中	状	1	
文1	144-14	御拂米廻札 六札目	「以廻札得御意候…」	11月6日	御勝手方→右村々(しの原、高木、安養寺)御庄屋中	状	1	
文1	144-15	御拂米廻札 八札目	「以廻札得御意候然者…」	巳11月24日	御勝手方→右村々(篠原、高木、安養寺)御庄屋中	状	1	
文1	144-16	御拂米廻札 九札目	「以廻札得御意候…」	12月3日	御勝手方→右村々(篠原、安養寺)御庄屋中	状	1	
文1	145-0	〔くくり紐〕				紐	1	
文1	145-1	明治拾五年当田米貸付			小沢七兵衛	横	1	
文1	146	覚	「丑極月[]…」〔諸費用書上〕	寅12月8日	蚊帳屋左兵衛→仁正寺様御勝手衆中様	横	1	
文1	147	明治九年日本帝国郵便規則罰則及貯金預規則		明治9年	駅通察	竖	1	
文1	148-0		(大篠原村納米之事 綴)			綴	1	文1-148-1~4綴
文1	148-1	大篠原村納米之事	「合三拾七石六斗七合式勺小澤」	明治10年10月		横	1	
文1	148-2	大篠原村納米之事	「合壹石九斗五升三合九勺淨勝寺拘豊吉…」	明治10年10月		状	1	
文1	148-3	大篠原村納米之事	「合八石八斗壹升七合壹勺小澤泰治郎…」	明治10年10月		状	1	
文1	148-4	大篠原村納米之事	「合五斗五升九合七勺 東惣六…」	明治10年10月		状	1	
文1	149	覚	「一、永十五貫六百文…」〔利息金書上〕	天保12年5月	江頭 絆屋与左衛門→大篠原小沢七兵衛様	横	1	
文1	150	覚	「一、金拾壹両五百文…」〔利息金書上〕	嘉永2年7月6日	かて屋与左衛門→小沢七兵衛様	状	1	

組織単位	No.	表題・[内容表題]	「書き出し」(内容)	年代	作成→宛所	形態	数量	備考
文1	151	覚	「一、金拾五兩…」(渡し金に付)	安政4年4月	日野六→大篠原小沢七兵衛殿	状	1	
文1	152	観音堂奉加帳		弘化2年2月	篠原村浄勝寺→世話方七兵衛(ほか8名)	竖	1	
文1	153	再勘定帳		安政5年12月	篠原村庄屋平兵衛、ほか3名 取縮小沢七兵衛→御奉行様	竖	1	
文1	154	本勘定帳写		嘉永2年12月	篠原村庄屋伝右衛門(ほか5名)→御代官久村右衛門様	竖	1	
文1	155	御年貢名寄帳		安政5年11月10日	東組	横	1	
文1	156	納米濱出帳		明治11年11月6日	大篠原村戸長役場	横	1	
文1	157	盗賊紛失覚書		嘉永3年3月28日	江州野洲郡大篠原村小澤七兵衛	竖	1	
文1	158	町組東組納米庭帳		明治16年11月	戸長役場	横	1	
文1	159	五千三百拾七兩永四拾八文四分三厘口 金主之者ヨリ被差出候引合書写取		明治5年7月		竖	1	
文1	160	旧西大路藩調達金御調二付御答書		明治5年7月	旧西大路藩調金方近江国蒲生郡森尻村大梁金弥(他9人)→大藏省御出張所	竖	1	
文1	161	旧西大路藩調達金 老萬八千八百四拾四兩永四十二文二分九厘口取調書		明治7年3月25日	旧西大路藩調金方蒲生郡第三区森尻村大梁金弥 他9人(惣代)→大藏省御出張所	竖	1	
文1	162	[店御帳]		嘉永2年		横	1	切断
文1	163	武田勝二殿江相渡候証書下書 且池田氏江相渡候証書下書 利子賦金御下渡之儀二付取調書 都而右日限中二取扱候証書類		明治8年4月		竖	1	

組織単位	No.	表題・[内容表題]	「書き出し」(内容)	年代	作成→宛所	形態	数量	備考
文1	164-1	旧西大路藩江調達金之義二付先般国債察御出張所江調書遣差上候不行届之義御断書		明治7年5月23日	蒲生郡第三区森尻村大梁金弥他9人惣代小沢七兵衛他1人→滋賀県令	竖	1	
文1	164-2	旧西大路藩御達金二ヶ条仕訳書		明治7年5月23日	蒲生郡第三区森尻村大梁金弥他9人惣代小沢七兵衛他1人→滋賀県令	竖	1	
文1	165	旧西大路藩御達金之内金子三千百七拾四両永七百六拾九文七分九厘口取調書		明治7年3月	旧西大路藩御達金方7ヶ村大左衛門外9人	竖	1	
文1	166	旧西大路藩御達金御調二付御答書		壬申明治5年7月	野洲郡大篠原村小澤六藏ほか→大藏省御出張所	竖	1	
文1	167	都鄙新聞 第一		慶応4年5月	御用御書物所京東洞院三条上ル町村上勘兵衛(ほか)	竖	1	
文1	168	旧藩實御下ヶ渡之儀二付 委任書		明治7年7月19日	野洲郡第五区大篠原村→小澤七兵衛	竖	1	
文1	169	本勘定帳目録		慶応3年12月	篠原村庄屋岡田平兵衛ほか→御勝手方中線	竖	1	
文1	170	丑年村々御物成勘定控帳		慶応2年3月	篠原村	竖	1	
文1	171	再勘定目録帳		明治4年11月	大篠原村里長山田甚三郎 小沢重五郎ほか→御調計方様	竖	1	
文1	172		「本高巻石二付…」(本高・増高人別書上帳)			竖	1	
文1	173	地券二付高反明地佃取調帳		明治6年3月	東地下	竖	1	
文1	174	寺山人足帳		安政2年1月	東組肝煎治郎右衛門・弥兵衛	横	1	
文1	175		「執五ツ代十一両…」(金錢拂帳)			横	1	
文1	176		「一八貫六百十五文…」(人別金高書上)			横	1	

組織単位	No.	表題・[内容表題]	「書き出し」(内容)	年代	作成→宛所	形態	数量	備考
文1	177	覚	「町名主徳治殿…」(人別金高書上)			横	1	
文1	178	村方諸売拂代金取立并諸買掛掛帳		明治12年2月27日	大藤原村戸長役場	横	1	
文1	179	御上納金高帳		文化10年12月	釜屋七兵衛・栄屋泉司	横	1	
文1	180-1	大福帳		嘉永5年1月	小沢六左衛門	横	1	表紙朱書「十巻勘定本尻帳」180-3まで合綴
文1	180-2	主人差引帳		嘉永5年1月	小沢六左衛門	横	1	
文1	180-3	売上帳		嘉永5年1月	小沢六左衛門	横	1	
文1	181	二会日小沢三十四番地下持三十八番□重集		安政5年9月5日	東組	横	1	
文1	182	町組納米名寄帳		明治11年11月	戸長役場	横	1	
文1	183-0	【<<〇組】				組	1	
文1	183-1	大藤原村税米之事		明治9年～11年	戸長中	横	1	
文1	184	正美格式祝儀帳并御膳午役村蒙職締役役振舞入用		嘉永2年12～3年1月		横	1	
文1	185	歩銀駄賃帳		弘化2年12月26日	東組	横	1	「此長末二有もみすり賃も払」
文1	186	進米取立同差引払		弘化2年12月22日		横	1	
文1	187	拾月廿五月初払	(御払米)	(明治初年)		横	1	「門」表示
文1	188	舟方払認		亥		横	1	
文1	189	大福帳		文化3年12月	小沢七兵衛	横	1	
文1	190	小前行人足名記簿		明治11年6月3日～	戸長役場	横	1	
文1	191	大福帳		文化9年1月		横	1	
文1	192	五会日【 】		弘化2年3月6日		横	1	切断
文1	193	【新聞一括】				状	一括	

組織単位	No.	表題・[内容表題]	「書き出し」(内容)	年代	作成→宛所	形態	数量	備考
文 2	1	大福帳		安政2年1月	小澤七兵衛	横	1	
文 2	2	大福帳		嘉永3年1月	小澤七兵衛	横	1	
文 2	3	大福帳		万延2年1月	小澤七兵衛	横	1	
文 2	4	大福帳		慶応4年1月	小澤七兵衛	横	1	
文 2	5	納米渡方帳		明治16年11月	戸長役場	横	1	文2-21と関連
文 2	6	東組納米名寄帳		明治11年11月	戸長役場	横	1	
文 2	7	御勝手御省略写		嘉永6年5月	小澤正美	横	1	
文 2	8	大福帳		明治3年1月	小澤氏	横	1	
文 2	9	大福帳		天保6年1月	小澤七兵衛	横	1	
文 2	10		「金遣秘法…」(掛軸写)		江国濱海堂謹製(京都有栖川家性 家御染筆)	状	1	破損大
文 2	11	[包紙]	「証文 上川岸縁預ヶ手形 定十郎より」			包紙	1	
文 2	12	大福帳		安政4年1月	小沢七兵衛	横	1	(表紙上朱書)「十小 裏表紙右下に「巴大 福帳」とあり
文 2	13	大福帳		文久2年1月	小沢七兵衛	横	1	(表紙上朱書)「十五小 (裏表紙上朱書)「十 五壬戌大福帳」
文 2	14	大福帳		明治5年1月	小沢姓	横	1	(表紙上朱書)「十八」
文 2	15	大福帳		明治27年4月	小沢家	横	1	
文 2	16	村方諸人用控帳 惣地下		明治2年1月	惣地下	横	1	
文 2	17	書拔帳	(關東分)	天保13年3月		横	1	
文 2	18	浄教院順東并御遠 忌諸色扣帳		安政4年8月		横	1	(末尾)「此不足分生 方小沢大福帳ニ而分 ル 安政四巳年帳 右且中御出御覽可被 下候」

組織単位	No.	表題〔内容表題〕	「書き出し」(内容)	年代	作成→宛所	形態	数量	備考
文 2	19		(小澤七兵衛所持地反別書上)	(近代)		竖	1	
文 2	20	天保十巳冬年五月分より同十一年子五月迄分利足取上ヶ改	(小澤七兵衛所貸金138兩)	天保11年9月	江頭 結屋宇治右衛門→大藤原むら小澤七兵衛	横	1	
文 2	21	納米売払帳	(蔵米札目ごと、付買払書上)	明治16年11月	戸長役場	横	1	文2-5参考
文 2	22	学資積立講勘定帳		明治11年3月22日	奨風学校	横	1	
文 2	23	大福帳		明治9年1月吉日	小澤姓	横	1	
文 2	24	大福帳		明治25年4月	小澤家	横	1	
文 2	25	大福帳		嘉永6年1月吉辰	小澤七兵衛	横	1	
文 2	26	大福帳		弘化2年1月吉辰	小澤七兵衛	横	1	
文 2	27	大福帳		安政6年1月	小沢七兵衛	横	1	(表紙上朱書)「十二」
文 2	28	大福帳		明治6年1月	小沢姓	横	1	
文 2	29-1	西組岩蔵組納米庭帳		明治14年11月	戸長役場	横	1	
文 2	29-2	町組東組納米石数取調帳		明治14年11月	戸長役場	横	1	
文 2	29-3	西組岩蔵組納米石数取調帳		明治14年11月	戸長役場	横	1	
文 2	30	(大福帳)		(明治14年以降)	小沢姓	横	1	表紙欠
文 2	31	大福帳		明治30年4月	小沢家	横	1	
文 2	32	大福帳		明治21年4月	小沢家	横	1	
文 2	33	大福帳		明治19年3月	小沢家	横	1	玉田善之助の所に挿入文書5通あり
文 2	34		(中日新聞)	平成1年9月4日		状	1	
文 3	1-1	御触書写	(夫食増産の御触書写)	弘化2年2月		掛軸	1	1-1から1-3まで掛軸にまとも。
文 3	1-2	覚	(米代金受領証文)	天保7年12月15日	小松庭治、秋田清七郎→小沢七兵衛	掛軸	1	朱筆で米相場メモ記入。

組織単位	No.	表題・[内容表題]	「書き出し」(内容)	年代	作成→宛所	形態	数量	備考
文3	1-3	売渡米一札事	(米売渡証文)	文政2年12月7日	市嶋村永山弥五右衛門→釜屋七兵衛	掛軸	1	朱筆で米相場メモ記入。
文3	2	神系図				掛軸	1	
文3	3	三神之図				掛軸	1	
文4	0	(なしのハコ)			三水	柳行 李	1	段ボールコーティング紙ハコ
文4	1	地下頼母子掛金受取帳 東組		弘化4年11月26日 会日		横	1	
文4	2	順栄講割合標	(3月・11月の2回小堀久兵衛宅で開催)	寛政2年10月	検断小堀久兵衛・町年寄田中弥右衛門他4名・世話人 柴屋泉司他1名	竖	1	虫損
文4	3-0	[くくり組]				組	1	3-1-11まで一綴
文4	3-1-1	覚	(江頭不埒一件に付)	子12月25日	江州大徳原 納屋治三郎→上	状	1	
文4	3-1-2	覚	(納米受取)	子7月	(江州江頭)問屋甚右衛門→小沢七兵衛	状	1	
文4	3-1-3	覚	(納米二付勘定)	子7月	問屋甚右衛門→小沢七兵衛	状	1	
文4	3-1-4	覚	(銭請取)	子12月24日	岡田→小沢七兵衛	状	1	
文4	3-1-5	覚	(昼飯代等二付)	7月20日	多びや善兵衛→御役人中	状	1	
文4	3-1-6	覚	(金子請取)	子7月20日	(江州八幡海老善)多びや善兵衛→御役人中	状	1	
文4	3-1-7	覚	(柴屋清兵衛取納米代書二付)	壬子(嘉永5年)7月 26日	竹村猪右衛門→小沢七兵衛 玉尾藤左衛門	状	1	
文4	3-1-8	覚	(堺・木戸貨銭受取)	子10月	勘進元→上田亀太郎	状	1	
文4	3-1-9		「一、拾文 やばせ…」(日役二付)		源左衛門	状	1	
文4	3-1-10	覚	(年賦帯金二付)	壬子(嘉永5年)9月 27日	竹村猪三郎→小沢七兵衛 玉尾藤左衛門	状	1	
文4	3-1-11	口演	(相統講に付樽料受納)	子5月12日	(江州八まん)幸圓徳右衛門→仁正寺様御勝手様	状	1	
文4	3-2	覚	(利金二付)	子12月	竹村猪三郎→小沢七兵衛	状	1	
文4	3-3	覚	(病田御用捨御書付写)	11月	竹村→小沢様、玉尾様	状	1	
文4	3-4	[廻章]	[以廻章啓上仕候、甚寒之節…][郷御勘定に付]	12月12日	御勝手方→外原村 外10村	状	1	

組織単位	No.	表題・[内容表題]	「書き出し」(内容)	年代	作成→宛所	形態	数量	備考
文4	3-5-0	[包紙]	[[下カ]豊浦村庄屋中より手 かみ入用…]		右村々庄屋中	包紙	1	紙背も包紙なり
文4	3-5-1	[書状]	「前書被下辱拜誦仕候…」(下 豊浦直段之儀)	11月28日	小沢七兵衛→下豊浦村御役人衆中	状	1	
文4	3-5-2	[書状]	「御書面被下辱拜誦仕候…」 (下豊浦直段之儀)	11月23日	小沢七兵衛→下豊浦村庄屋御役人衆中	状	1	
文4	3-5-3	[書状]	「以手紙奉啓上仕候…」(御拂 米直段二付)	11月20日	下豊浦役人中→御勝手方御取締 小沢七兵衛	状	1	
文4	3-5-4	[書状]	「以手紙奉得御意候…」(御拂 米直段二付)	11月22日	役人中→小沢七兵衛	状	1	
文4	3-5-5	乍恐口上書	(御私直段二付)	12月7日	下豊浦四々役人→御取締 小沢七兵衛	状	1	
文4	3-5-6	[書状]	「態々以便奉得御意候…」(御 拂米二付)	11月27日	下豊浦役人→小沢七兵衛	状	1	
文4	4-0	[<くり組]				組	1	
文4	4-1	[書状]	「以手紙申入候…」(御拂米場 所二付)	9月26日	竹仲左衛門→小沢七兵衛・玉尾藤左衛門	状	1	
文4	4-2	[書状]	「以手紙申入候、秋冷…」(御拂 米場所近々治定二付)	9月23日	竹仲左衛門→小沢七兵衛	状	1	包紙入
文4	4-3	[書状]	「以手紙申入候、然者…」(先刻 承候一条二付)	1月25日	竹仲左衛門→小沢七兵衛	状	1	
文4	4-4	[書状]	「一筆啓上仕候…」(都賀の葉 5包送付願)	8月1日	山本金平→小沢七兵衛	状	1	包紙入
文4	4-5	[書状]	「愚書ヲ以奉申上候…」(柴清 一条二付)	3月29日	林八兵衛→篠原村御庄屋御役中様	状	1	包紙入
文4	4-6	[書状]	「一筆致啓上候…」 (江戸日本橋出火の報)	6月4日	竹内善藏→小澤七兵衛	状	1	包紙入
文4	5-0	[<くりひも]				組	1	
文4	5-1-0	[<くりひも]				組	1	
文4	5-1-1	[題章]	「高々納証之義…」 (五品商祝金前半券上納金)	(明治)9年8月23日	副区長→大篠原村他6カ村 右村々正副戸長	状	1	包紙入

組織単位	No.	表題・[内容表題]	「書き出し」・(内容)	年代	作成→宛所	形態	数量	備考
文4	5-1-2-1	[廻章]	「至急廻章…」 〔別紙達書の通詳細取調るべき旨〕	明治9年4月30日	副区長小沢七兵衛→高木村他2カ村 右村々正副戸長	状	1	包紙入「廻章」 ～文4-5-1-2-2まで一括
文4	5-1-2-2	御達之写	(明治8年仕付ない場所獄下年季願う分取調へるべき旨)	明治9年4月21日	滋賀県地租改正事務印→野洲郡第一区他4区	状	1	
文4	5-1-3	[廻章]	(田藩組中の節の積立講・人別講・藩債となる旨)	4月29日	大篠原村小沢七兵衛→右各区正副戸長 鏡村 他5カ村右村々正副戸長	状	1	包紙入
文4	5-1-4	[廻章]	(5月1日午前8・9時頃清水揚町源七方へ出頭令)	明治9年4月30日	小沢七兵衛→十王町村 江頭村 右正副戸長	状	1	包紙入
文4	5-1-5	[廻章]	(官地拜借有無届書提出すべき旨)	8月14日	小沢七兵衛→長島村他3カ村 右村々正副戸長	状	1	包紙入
文4	5-2		「巻入式宛…」 (京詰人足他書上)			状	1	
文4	5-3-0	[<くりひも]				ひも	1	
文4	5-3-1	[書状]	(御用につき罷出づべき旨)	6月7日	田八郎兵衛→御用方 小沢六左衛門	状	1	封紙あり
文4	5-3-2	[書状]	(貴君様日役取調遣し下さるべく)	10月29日	河州星田村御陣所二面竹村治右衛門→江州大篠原村二面 小沢六左衛門	状	1	表紙 半分欠
文4	5-3-3	[書状]	(御在番中御厄介に相成に付)	8月2日		状	1	
文4	5-3-4	[書状]	(御茶壺通行に付、申達し)	6月22日	田八郎兵衛→御用方 玉尾藤左衛門 小沢六左衛門	状	1	封紙あり
文4	5-3-5	[書状]	(上田村久口東右衛門方江出役下さるべく)	9月14日	杉左太郎→小沢六左衛門	状	1	
文4	5-3-6	[書状]	(貴家両家御治り方に相成り候様)	11月23日	竹村権兵衛→小沢六左衛門	状	1	封筒あり
文4	5-3-7	[書状]	「貴札参拜見仕候…」 (久九・玉尾両君よりの御状受取ほか)	6月22日	大梁拜→小沢謙	状	1	包紙入
文4	5-3-8	[書状]	「替り人足差遣し候…」 (人足4人差遣しに付)	6月16日夜認	竹村猪兵衛→小沢六左衛門謙	状	1	

組織単位	No.	表題・[内容表題]	「書き出し」(内容)	年代	作成→宛所	形態	数量	備考
文4	5-3-9	[書状]	「甚寒之節益御安□奉寿候…」 (一件に付親類へ相談なき事 奉りに付)	11月28日	竹村猪兵衛→小沢六左衛門様	状	1	封筒入
文4	5-3-10-1	覚	(御上下2人分代金請求)	6月18日	播戸屋善兵衛→上	状	1	包紙入 ～文4-5-3-10-2まで 一括
文4	5-3-10-2	[書状]	「以手紙得御意候…」 (高木村惣語を違わず旨)	6月14日	黒田平治→小沢六左衛門様	状	1	
文4	5-4-0	[くくりひも]				紐	1	
文4	5-4-1	[書状]	「為御礼申上候…」 (相統一件二付心配は無用の 旨)	1月18日	竹村猪兵衛→小沢六左衛門様	状	1	封筒入
文4	5-4-2	御請書	(御触書・御添書6通拜見)	1月14日	大梁氏→小沢御氏	状	1	
文4	5-4-3	[書状]	「以手紙得御意候…」 (御送りの串39本のうち13本 受取)	10月8日	高木九衛門他2名→小沢七兵衛様	状	1	
文4	5-4-4	[書状]	「拜見仕候、然者…」 (油3斗受取)	11月11日	飯島利兵衛→小沢六左衛門様	状	1	包紙入
文4	5-4-5	[書状]	「難有拜見仕候…」 (70度計米買入白米にし村方 頼るよう)	12月9日夕	飯島利兵衛→小沢六左衛門	状	1	包紙入
文4	5-4-6	[書状]	「春寒難退候處…」 (翌18日の儀定結果；御老人 様容体につき尋)	1月23日	大梁金兵衛→小沢六左衛門	状	1	封筒入
文4	6-0	[くくりひも]				ひも	1	
文4	6-1-1	覚	(納30度の代金書付)	9月6日	岡田→小沢	状	1	
文4	6-1-2	覚	「御敬米拜借引残候」(米高願 い分書上)	8月10日 改	庄屋兩人→小澤七兵衛	状	1	
文4	6-2	村々痛田御用捨米 之覚		亥11月		状	1	

組織単位	No.	表題・[内容表題]	「書き出し」(内容)	年代	作成→宛所	形態	数量	備考
文4	6-3	名面書		3月7日	鎌尚輩→小岡阿君	状	1	
文4	6-4	御願上申候事	(御收納米御郡出し・村々預り米引請願)	嘉永3年10月	江頭村積問屋 池右衛門→仁正寺様 御勝手方 御役人衆中	状	1	
文4	6-5	御願上申候事	(積問屋和兵衛体株につき郡出し等引請願)		田中居村 種問屋市郎 他5人→仁正寺様 御勝手方 御役人衆中	状	1	
文4	6-6	【書状】	(志の原直造申託下書)	10月29日	小沢七兵衛→竹村権兵衛	状	1	
文4	6-7	【書状】	(御遣金返却下さるべく他2項)	10月27日	竹村権三郎→小澤七兵衛	状	1	
文4	7-0	【くくり組】				ひも	1	
文4	7-1	御用米拂		未9月3日		状	1	
文4	7-2	新穀初拂		未9月11日		状	1	
文4	7-3	二礼目御拂		9月19日		状	1	
文4	7-4	三礼目御拂		9月28日		状	1	
文4	7-5	四礼目御拂		10月8日		状	1	
文4	7-6	五礼目御払		10月18日		状	1	
文4	7-7	六礼目御払		10月28日		状	1	
文4	7-8	十一月七日大津初払		11月7日		状	1	
文4	7-9	七礼目御払		11月8日		状	1	
文4	7-10	八礼目御払		11月18日		状	1	
文4	7-11	九礼目御払		11月28日		状	1	
文4	7-12	大津払三礼目		11月27日		状	1	
文4	7-13	未冬御囲米				状	1	
文4	7-14		【入式阿 被下】(掛金書付カ)			状	1	
文4	8	当田帳	(小作経営帳簿)	嘉永6年1月	小沢七兵衛	横	1	【式】 安政七庚申年写出入

組織単位	No.	表題・[内容表題]	「書き出し」(内容)	年代	作成→宛所	形態	数量	備考
文4	9		「一五門五拾四錢九厘…」 (金銭取立帳断簡)	(明治以降)		状	1	横冊断簡
文4	10	[白紙]				状	1	断簡
文4	11		「嘉永元戊申年六月」 (断簡)	(嘉永元年6月)		状	1	前後欠
文4	12	覚	(子年分年賦金之内5兩受取)	丑4月21日	高木九兵衛→小沢七兵衛殿	状	1	
文4	13		「一筆啓上仕候…」 (金子御恩借の件札状)	7月17日	高木九兵衛→小沢七兵衛様	状	1	包紙入
文4	14	[白紙]				状	1	
文4	15	奉拝借金子之事	(領内融通御本方様御貸付御 手段金200兩)	嘉永元年5月	□(切り取られている)→御役所様	状	1	包紙入
文4	16		(手習一括)			状	一括	
文5	0	[木箱]				箱	1	
文5	1		「明治四未年 踊田年貢」			状	1	
文5	2-1-1	古來開書附		安永9年8月		堅	1	～文5-2-4まで一括
文5	2-1-2	[書状]	「御書面ニ預り拜見仕候」	8月16日	長尾(カ)村役人→大篠原村御役人中	状	1	包紙あり 2-1-1中に にくくられる
文5	2-2	かや 覚長		明和8年8月		横	1	
文5	2-3	踊付組入用長		寛政7年8月	東組	横	1	
文5	2-4	長嶋大明神雨乞返 請用帳		天保5年9月5日	東組	横	1	
文5	3	長嶋水(カ)踊田永 代帳		文化10年12月～	東組	横	1	<<くり付文書あり
文5	4	酉年湯料御覚			神働 山川→東御地下	状	1	
文5	5	覚	「一、金貳拾七兩…」(割付)			状	1	
文5	6	覚	「貳拾七兩三歩壹朱ト…」(3つ 割り)	午12月18日	長嶋村 勘定→東 御地下中	状	1	

組織単位	No.	表題・[内容表題]	「書き出し」・(内容)	年代	作成→宛所	形態	数量	備考
文5	7	[]御湯料大笹原 神社五千石神社	(御付カ)	午[]	神主 藤原行[]→東組 御地下	状	1	虫損
文5	8	覚		2月18日	戸長 岡田伊三郎→東組 御地下衆中	状	1	
文5	9	神風講社規約書		明治12年5月	神風講 社長・取締・世話役	豎	1	
文5	10	覚	(さかな・サシ代金)	とり6月	佐二郎→町東左□田 両御地下	状	1	
文5	11		「米三斗五升善吉より酉年貢 書入」			状	1	
文5	12	覚	(豆腐5丁代金)			状	1	
文5	13	玉造講代々神楽奉 納二付勘定帳		明治12年4月		横	1	
文6		俳術鑑之巻	「柔能制々能治柔 凡俳術の 徳…」(俳術の秘伝書)	文化10年1月吉辰	松村源助→小澤虎吉	卷子	1	

(以下、次号に続く)